

私の中国独り旅より

～ 「街ingニュース」2010年9月号～2013年7月号連載記事の総集編 ～

川島章嗣

<もくじ>

< (注) 項目番号とページ番号は同じ >

1. 船旅の薦め
2. 上海万博について (1)
3. 上海万博について (2)
4. 飲食事情について
5. 交通事情について (1)
6. 交通事情について (2)
7. 交通事情について (3)
8. 上海から煙台へ
9. 煙台～大連
10. 大連市・旅順 (口区)
11. 丹東 (タントン)・集安 (ジーアン)
12. 集安→通化 (トンファ)→長春 (チャンチュン)
13. 長春 (吉林省の省都)【終戦までは「新京」元満州国の首都】 I
14. 長春 (吉林省の省都)【終戦までは「新京」元満州国の首都】 II
15. 大連市 [II]: * [I] はもくじ No. 9、10 の再読乞う
16. 大連市 [III]: * もくじ No. 4～7、9、10 も参考に!
17. 大連市 [IV]: * もくじ No. 4～7、9、10 も参考に
18. 北京市 【I】
19. 北京から昆明へ
20. 昆明の市内観光と石林^{シーリン}
21. 雲南民俗村とカメラの盗難
22. 上海世博会から北京市へ
23. 北京市【II】頤和園^{いわえん}
24. 北京市からラサに向けて
25. 青海・西蔵鉄道
26. ラサ市内から納木錯^{ナムツオ}へ
27. 納木錯 (ナムツオ) から上海
28. 上海市内 (外灘^{ワイタン})
29. 帰国の船旅・上海 (国際旅客輸送埠頭、黄浦江、長江)
30. 帰国、ひげの話、まとめ

=船旅の薦め=

私の中国独り旅より

川島章嗣

私は連休明けの5月7日より友人と2人で、2週間後には独りで中国の数都市を旅行してまいりました。勿論世博会（上海万博）にも3日間行きました。

私の中国訪問は約40年前、広州で開かれていた「秋期交易会（見本市）」に3週間参加したのが最初で、その間の休日に、万里の長城、明の十三陵や桂林を訪れ、その偉大さに感服し、それ以後10日程度の中国観光地の団体旅行に20回余参加しました。当時は中国旅行は料金が高く1回30万円位、皆んなにヨーロッパ旅行が出来るのに、何故中国しか行かないのかと笑われたものでした。それ程私には中国は魅力がありました。

昨年の春、きらめきの中国語講座に初参加のO氏が30万円も有れば自分なら1ヶ月旅行してもまだおつりが出ると自慢話を度々し、他の個人旅行経験者も同調するので、そんなに安く行けるのなら、1度は是非連れて行ってくれと頼み込み、複数での長期旅行は初めは良いが、趣味や好みの違いから必ず喧嘩になると断られ続けましたがO氏のプランや言行に従うとの条件付きで、この度の旅行が実現しました。前置きが長くなりましたがO氏のプランの最初が大阪―上海間を船で旅する事でした。何故安くて速い飛行機を使わないのかが解りました。



私達が利用した上海フェリーの蘇州丸は毎金曜日の正午出帆、日曜日の正午頃到着（帰りは火曜日11時上海発）、往復料金は2等室A（2段ベッド4人個室）朝食付で36,000円〔飛行機のエコノミークラスよりは一寸高い〕、昼定食400円位、夜定食800円位、ビールは日本製で国内価額の半値、自動販売機の500ml缶ビールは200円で飲む事が出来ます。手荷物も30kg迄無料税関等の検査も簡単です。乗客の大半は万博の勢もあり中国人より日本人の方が多く、その他の外国人は1割程度で世界1周の独り旅をしていると言うフランス人の女子学生も居ました。

出帆後1時間ほどすると船内は落ち着き、ロビーやラウンジが賑やかになります。「やあ」とか「お久しぶり」等の掛け声を聞くので常連客が多いようです。中国人も日本語が話せる在日の人がかかり居るようで、中国語を知らない日本人でも輪の中に入って行けるようです。

夜はカラオケルームなども開店し、中々の盛況です。私と同室の中国人は上船時荷物を置きに来た後は深夜になっても帰って来ず、何時帰って来たのか朝方こちらが起きる頃高寝です。

2日目ともなるとこの傾向はさらに著しく、あちこちにグループが出来、女の人には聞かせられない様な話も飛び出して来ます。船旅は情報交換の社交場と言っても過言では有りません。初めは中国人の小学生相手に会話練習をしていた消極的で引込み思案の私でしたがヤングママ達とも親しくなり、結構楽しかったです。

今迄客船の存在すら知らなかった私ですが、青島、天津向けの船も有るらしく、次回からは船旅派になり、街ingの皆様にも中国旅行は船でとお勧めする次第です。

私の中国独り旅より

川島章嗣

前回初めての投稿を致しましたところ、会長に良かったので続きを書くように勧められ、引き受けましたが、原稿の締め切りが迫って来ると極めて大儀、すすめ上手の阪田さんにうまく持上げられたようです。【反省】でも折角の機会ですしネタは有りますので努力してみます。唯話をどのように進めていけばよいのか構想が纏りません。旅の工程に従うのか、個々の話題で行くのか、一回目の続きはどちらにも行けそうですが、時期的な問題も有りますので今回は上海万博にしました。終盤に行く事を計画されて居る方は参考に！

世博会と書いてシーポーホイと読みます。黄浦江(かの有名な外灘ワイタンはその下流)の両岸に跨り東側は下流から A、B、C の3ゾーン西側は E、D の2ゾーンに分かれて居り面積は5.28平方キロ万博会場としては過去最大の広さで愛知万博の2.5倍東京ドームの70個分あるそうです。テーマは英語で Better city Better life 差話「より良い都市でより良い生活」と言うところですか。入場券の種類は色々有りますが基準価額は平日券で160元(土日休日券は200元 以後1元=15円で計算して下さい)ですが、入場制限も度々あり希望通りの入場が保証されて居るものは場外でプレミアつきで売られて居るので実際の価額はまちまちです。私はホテルや旅行社は高いので郵便局で買う様にとの前回書いた蘇州丸船内の情報により上海の浦東空港の郵便局でパスポートを提示して1枚100元 公割引で3枚買いました。



さて私の予定は3日間でパビリオンは日本館、日本産業館、大阪館それと中国館は最低見て来るつもりでした。しかし計画は最初から危うくなりました。最初の日会場に着いたのは11時前でした。メインゲートの傍に紅色のテレビで見たそのままの中国館が聳え立っており、嫌でも足が向きました。そばに行くと大勢の人が群がって居り、列の最後に回ると何やら紙切れを持って居りそれが入場整理券。入手の方法を尋ねると9時開門前に毎日配布される由、それを入手の為に早朝6時からゲート前に並び手に入れたとの事でした。仕方が無いので諦め同じAゾーンの日本館へ回るとこれ又待ち時間6時間と有り、これでは1館も見られないのでは懸念しながら、ベンチでパンとミルクで食事を済まし、午後は無料のバスで会場内を見て回る事にしました。途中で出会った日本語を話すボランティア女性にホテルが遠く整理券が入手出来ない窮状を話すと事務局へ連れて行ってあげるから交渉してみろと勧められ、自ら案内して呉れました。館内には入れないのでと親切にも中国館の警備員に私を責任者の所へ連れて行くよう交渉までして呉れました。来る道筋頭の中で陳情の要旨を考え、責任者にまくし立てました。「何人で来ているのか」と問うので、「独りだ」と答えると、ホアンインニー(貴方を歓迎するの意)自分の後に付いて来いと言うので付いて行くと登り口のエレベーターの前まで案内して呉れました。この間5分とかからず実にラッキーでした。ボランティア女性とこの責任者に感謝感激です。



私の中国独り旅より

川島章嗣

それに引き換え我が日本館はどうでしょう！翌日一番電車で会場を訪れ、直行で日本館に行きましたが、やはりボードは5時間待ちでした。日本人の係員が居たので、中国館の例を持ち出し、独りで日本から来ているのだから何とか便宜を図る様に迫ったが、「例外扱いは一切するな」と上から言われて居るので出来ないと頑として受け付けない。「午前中は団体客が来るので混み合うから、産業館等を先に回り4時過ぎにこちらへ来たら」と言うので、川向うの日本産業館に向う。m i k i h o u s e に日本からの派遣店員が居たので雑談をしているとお客さん「お歳は」と聞くので「73歳」と答えると「70歳以上は身障者と高齢者の列に並ぶと良い」と教えてくれた。その通りにすると、パスポートで年齢チェックを受け、小一時間で入館出来た。日本館メンバーを除く中堅18社の共同出展で内容はよく覚えて居ないがまあまあであった様に思うが、キコーマン醤油等2,3の食品サンプルが入った日本画の富士山をデザインした袋が好評であった。サンプルはホテルの従業員に、袋だけ持ち帰ったが一寸重い物を入れたらミシン目の所で破れてしまった。

大阪市と大阪府の共同出展ブースはEゾーンの都市文明館の一部に有り映像での桜(並木)の通り抜けは奇異に感じた。出展の水の浄化装置は良い水の無い中国人には興味深い物かも知れない。

さて日本館ですが、小泉政権の時代に決まった場所故Aゾーンの最も僻地、韓国館よりも更に奥です。しかし現在の日本人気は相当なもので、日本館は会場で5指に入る人気があります。ボードは4時間待ち、時刻は5時7分、見渡したところあまり多くなさそうなので兎に角列の最後に並びました。1時間ほど過った頃ボードは3時間30分に書き換えられました。夜間入場の人が増えた為か列の並びは急激に増え、列の前も中々進みません。



1度急激に進んだと思うと今まで見えなかった別の方向に並ぶ6列が現れました。後で分かった事です。列の後部が道路にはみ出した時や清掃の為に大挙移動をさせるようです。その為館の周りには縦横に柵が置かれて居り、最初にあまり多くないと感じたのはその為で結局入館出来たのは9時過ぎで、その間前後左右日本人は私一人、トイレに行きたくなると困るので水分も余り取れず、下は中国人がなんでも捨てるので汚く座れず、さりとして折角今迄並んで途中で抜け出る決心もつかずじっと我慢するしか有りませんでした。

入館してトイレの在りかを聞くと、嘘かほんまか分からないが中には無いので公衆トイレに行けと言う。再入館を確約させて用を足して帰って来るとガードマン2人が立ちはだかつて入れて呉れない。無理に入ろうとすると掴み合いの喧嘩になったが、私も必死大声を出してわめいたらやっと係員が出て来て再入館出来たが、この騒ぎの為に一回転遅れて又45分待たされた。プログラムの内容はテレビで度々紹介されて居ると思うので省略するが日本にはもっと度胆を抜く様な展示が色々出来る筈。帰れなくなると困るのでロボットが出て来た時点で退散した。地下鉄は途中までしか行かず駅前には雲助タクシーで一杯、経験が有るので少し離れた所まで歩いて流しのタクシーを拾った。良い運転手で値段も案外安かった。時間からみると神戸—大阪間の距離は有りそうだった。散々な目に遭った。

今回は連載4回目、シーポーホイの3回目を詳しく書く積りでしたが世博会も10月で終わってしまったので止めにします。当初意図した4館は見ましたが切符が残って居たので3日目も行くには行きましたが、最早長時間並ぶ気はせず、あまり並ばずに入れる所は展示と言うよりは物産即売会。会場をぶらぶらして早めに引き揚げました。結論としては上海万博に行く位なら帰国後淡路島に行った序に足を伸ばした鳴門市の大塚美術館(大塚製菓の創業者のコレクション)に行く方が遥かに有意義だったと言う事です。まだ行った事の無い人の為に申し上げますが、入館料は3500円で世界の名画1000点以上が時間の無駄なく1日掛けて見られます。是非一度行って下さい。お勧めします。

さて、今回旅行した経路を紹介して置きます。大阪—上海—揚州—青島—煙台—大連—丹東—通化—長春—大連—北京—昆明—上海—北京—羅薩—上海—大阪の11都市です。

長春でO氏と別れましたのでそれ以後は全くの独り旅です。昆明ではカメラを窃られました。従って皆様に最新中国の巷の様子をお見せすべく小まめに撮った約650枚のこの日までの写真が無くなって仕舞ったのです。写真を見ながら旅行を振り返るつもりで居ましたのに残念です。記憶だけに頼ってのこの旅行記執筆は骨が折れます。誤りが有るかもしれませんがご容赦ください。旅行の経路を書いたのも記憶を甦らせる為です。



中国人は食べる事とビールを飲む事が大好きです。早朝から深夜まで飲食店は繁盛しています。特に朝食は外食が当たり前のように、人気店は行列が出来ます。安い店だと麺類と3品位のおかず盛り合わせ、それにゆで卵1個で4~6元位で食べられます。また夕方飲食街では店先の歩道のみならず車道に迄はみ出してのテーブル席が出来ます。同時に魚介類、野菜、果物が陳列されて居て、好きな物を好きなだけ選び炉端焼き方式で提供される。一方酒類はビールが主流で銘柄も多く日本より少しすくない500ml又は600mlの瓶ビールが1本5元~12元で一般に味は薄い。缶ビールは日本の4銘柄の中国製が有るが味は全く異なる。値段は500mlが7元弱です。学生達4・5人がテーブルに20本前後の空き瓶を並べて居るのも肯けます。私も独りでビール2瓶付きで1晩5・60元位で良く行きました。現地で知り合った人に清客(チンクウ—奢る)しても安心です。大連で知り合った日本語学校の学生(日本人と会話がしたいと近付いて来た)と5回飲みましたが、学生だと思い清客して居ましたら、北京に向かう前日送別会だと言ってビル中の飲食店に案内され清客されました。私が通った商店街の店よりも一段高級の様でした。

中国の乗り物の種類は日本と変わりません。しかし普及の面から言うと個々の乗り物は日本と多いに隔たりが有ります。庶民に最も親しまれ利用されて居る乗り物はバスです。以前は2両連結のチンチン電車やトロリーバスが主流でしたがそれが今やバスに置き換わって来て居るようです。又その当時は浮浪者が終戦後の満員電車に乗って居るが如き様子で日本人には乗れたものでは有ませんでした。20年程前に三峡下りをして上海の港に着いた時、波止場に20台程のバスが並んで居り、その横腹に阪急バス、近鉄バス、京阪バス、南海バス、等々で見慣れたバス会社の名前が書かれて居り、日本からフェリーで多人数の団体客が来ていると思いきや日本からの中古バスの陸揚場、また市内に出ると前記会社名を塗り替えもせずそのまま走らせているのに驚いたものです。しかし現在では新車が多く使われて居り古い車でも座席の Springs がむき出しと言う様なひどい物は有りません。省都からは多方面にバスが出て居り、その回数も5分おき位には有りますから日本に較べると極めて便利です。何よりも驚かされたのは運賃の安さで始発駅から終着駅まで1時間以上の距離がたったの1元、往復2元で3時間のドライブが楽しめるという訳です。多くのバスの座席は、前向き横並びは別にして、窓際1列(後部座席は複数座席も有る)で向い側に路線図が有る所に座り、往きに目ぼしい所を見て置いて、有れば復^{カエリ}に其処で途中下車、見物、食事、買い物等して帰ります。都市部は少々混み合いますが郊外に出れば大体座れます。私の場合は足に故障が有りましたが、無精髭のなれの果ての白髭が物を言い若い乗客の傍に行くと直ぐに代って呉れますので大いに助かりました。

2つほど注意する事が有ります。1元札か硬貨を10枚程度常に持ち歩く事と、終バスの時間が行き先によっては案外早い事です。理由は中国の労働者は残業をせず早々と家路に着く為です。今回の旅行中一度長春で帰りのバスが無く酷い目に遭いました。

次は長距離バスです。市内バスとの大きな違いは改札前に手荷物検査が有る事です。原則レントゲン検査ですが、ハンドバッグや小型リュックは口

を開けて係員の目視検査を受ける事も出来ます。各都市には大きなターミナルが有り、800km位離れた各都市向けに1日3便程度出て居ます。車両はデラックスで座席の前にテレビの付いたものもあり、また履物を脱いで乗る寝台車、窓際に各1つ通路を挟んで真ん中に2つ合計4つ寝台が横並びで縦に9列ある寝台バスにも乗りました。航空運賃よりは可なり安く因みに大連~長春間約650kmは198円で11時間掛りました。途中トイレ休憩3回と昼食休憩が有りました。高速道路は全国に張り巡らされて居り片側は少くとも2車線多ければ5車線有りインターチェンジの乗り換えは四本位が普通です。沿道の景色は都市部を除いては殆どがのどかな田園風景で所々に村落が有ると、約10km置きにテレビ塔のような高い携帯電話のアンテナが目につきます。



前回中国の高速道路を最大片道5車線と書きましたが清野さんが入れて下さった中国の高速道路図を見ると皆さんお気づきだと思いますが、7車線も有りますね。良く調べてみると概ね東西に走るものは7車線、南北に走るものは5車線と言うのが正しいようです。最初の頃に見た幾つかの高速道路が5車線だったので、その多さに吃驚し、ずうーと5車線とばかり信じ切って居て、その後は良く見なかったのですが7車線とは更に驚きです。さて次は地下鉄、これもバス同様庶民の乗り物です。北京と上海の場合は、料金は乗車区間に拘らず1回2元です(大連市は区間により異なる)。しかし券売機で買う時は乗車駅と降車駅を選ばねばならず、両市とも大阪市に似た地下鉄で現在運行中のものが10路線程在ります。仮に10路線とすると10枚の画面が有りますから、外国人の場合は何号線の何駅から何処で乗り換え何号線の何駅までを予め調べて置かねばなりません。一応お釣りは出ますが高額紙幣は原則使えません。使えるのは乗降客の多い券売窓口の有る駅だけです。切符は上海では乗車券の表示が有るだけの裏が磁帯の紙製ですが、北京は確か無印のメタルだった様な気がします。最初はそれを何処に入れるのか戸惑ったものです。手荷物検査は高速バスの場合と同様必ず有ります。エレベーターが無かったり、乗り換えの通路が長い駅も有りますので重たいキャリーバッグ携行の場合は大変です。しかし前述白髭のお蔭で困って居ると直ぐに中国青年が持って呉れますので大助かりです。感謝感謝感激です。



地下鉄に似た磁浮と書く途中に駅の無い空港行き的高速の乗り物が有ります。磁浮とはリニアモーターカーの事です。上海万博の為に作られたらしく会場に通じる7号線の竜陽路駅から浦東空港駅までを約40分で結び料金は50元です。北京にも料金25元の空港線が有り、こちらは13号線の東直門から10号線の三元橋を経由して以後ノンストップで空港まで行きます。注意すべき事は空港の第1・第2ターミナルと第3ターミナルに行く為の2つの駅が有ります。航空会社と行き先の組み合わせにより100以上の路線が有りますから、自分の乗る飛行機が何処から出発するのかをよく確かめて置かないと、2つの駅の間(10分掛るので20km位離れて居るのでは無いか)を往復せねばならず、その都度25元(地下鉄の12.5倍)払わなければ成りません。日本の物価からすれば大した金額でないかも知れませんが長く滞在すると、物価が分って来るので、だんだん中国人の感覚になって来ます。我ながら不思議です。



航空会社と行き先の組み合わせにより100以上の路線が有りますから、自分の乗る飛行機が何処から出発するのかをよく確かめて置かないと、2つの駅の間(10分掛るので20km位離れて居るのでは無いか)を往復せねばならず、その都度25元(地下鉄の12.5倍)払わなければ成りません。日本の物価からすれば大した金額でないかも知れませんが長く滞在すると、物価が分って来るので、だんだん中国人の感覚になって来ます。我ながら不思議です。



だんだん中国人の感覚になって来ます。我ながら不思議です。

今回はタクシーの話をしてします。私が40年前交易会（貿易見本市）に行った頃はタクシーと言えば大手ホテルの直営で、ホテルの前にドア開閉のハンドル等の取れた車を含む可なり使い古した車2・30台が用意され、必要な時に玄関に行き、空車が有れば直ぐに乗れ、無ければ車が帰って来るのを待つ、勿論フロントに時間を指定して予約すればその時間に車が用意され、或は指定の場所に迎えに来てくれると言う乗り捨ての一方通行のシステムで運賃も相当高かった様に記憶して居ます。その後は団体ツアーばかりで乗車の経験は有りません。今回も前記バスや地下鉄が安くて便利な為、北京や上海では利用しませんでした。従って話は大阪の様な大連市と長春市それと茨木の様な地方都市の経験しか有りません。大連市の車は、私は車にあまり興味が有りませんので詳しい事は分かりませんが車種は色々、殆どの車が新しく、車の色も色々有るところを見ると企業営業よりも個人営業の車が多いのではないのでしょうか、システムも流しでメーター制、市の中心部なら何処へ行っても10～15元有れば行ける様です。長春市の場合もほぼ同じですが長春駅の近辺で空車が目立つのに手を挙げても止まって呉れない、理由を通行人の何人かに訊ねてみたが意志が通じない。漸く話が通じて解った事は、降車は何処でも乗り捨て自由だが、乗る時は駅前の交通ビルの地下乗り場に行かないと乗れないと言う事でした。タクシーに乗るのも一苦勞です。中国では「近くだから（日本に比べ激安）と行き先を示してタクシーに乗る」と言う日本人的思考はやめて事前にバスの経路図を調べバスで行く方が安くて簡単という一例。こんな経験が何度か有りました。田舎都市の場合はメーター制だが、中心部は定額で3元とか4元の別料金が有るらしくメーターは倒して走ります。行きはタクシーで、帰りは大した距離で無い事が解れば周りを見ながら歩いて帰って来るのも乙な物です。兎に角自転車は姿を消し、タクシーも今や庶民の足として広く利用されて居る様です。

国の経済力が増したせいか、金持ちは高級車を、そこまで行きつかな人は普通車や中古車それにスクーターやバイクの個人所有が増えて居る様です。交通ルールが如何なっているのか、信号機が少ない勢も有って無謀運転による交通事故も日々増えて居る様です。歩行者となる各



高松－上海線、片道最安 3000 円に
(春秋航空会長が会見)

位の場合は左右と前は勿論の事、うしろも十二分に注意して頂きたいと思います。

中国の場合は「皆で渡れば怖くない」の応用も必要かと思ひます。最後に航空機に就いて触れてみたいと思ひます。客船と共に既に述べた点は省略し、ここでは航空券に係る事だけに絞りたいと思ひます。チケットの安売りは春秋航空の例に見られる如く正規料金の9割引の極端な例も有る様です。色々確かめましたが大抵は兎も角、如何に粗末な店でも有っても店舗で売られて居るチケットで有る限りトラブルは無い様です。今一つ驚いた例は日本のJALやANAに匹敵する著名会社がフライト時期が迫って来ると大幅値引をする様です。つまり空席で飛ばすよりは幾らかでも入金があれば得との合理的考えからで 空港に2時間前に行って案内係に安いチケットは無いかと告げると会社の直営窓口案内され昆明行きのチケットが3割引で入手出来ました。



私の中国独り旅より（８）

川島章嗣

いよいよ８回目に成ります。今回からは旅行した経路に沿って私の脳裏に深く印象づけられた事柄に触れてみたいと思います。前にも述べた通りカメラを盗まれたので写真を見ながら旅を振り返る事は出来ません。だから大抵の事は直ぐに忘れる今日この頃ですから覚えて居ると言う事は逆に余程印象が深く興味深かった事柄だったと言う事が出来ます。

上海入港は１２時半頃でしたが早く着きすぎた為に係官が来ないとかで約１時間待たされました。下船は大阪とは違い船から岸壁までの約１５ｍを重い荷物を持ってタラップで降りなければならず一応屋根は有るものの横殴りの雨の中を足元も濡れて居るので滑り落ちないように注意して足を運ぶのは至難の業です。降りたら降りたでそこから２０ｍ程離れた所に待って居るバス迄移動せねば成らず傘は持って行ったものの、



蘇州号

さす手間よりも雨中を走って漸くバスに乗りました。それはそれは大変でした。市内を暫く走り、入国手続をするビルに着きました。通関等に小１時間は掛ったようです。待って居る間に〇氏と行ける所迄行こうと言う事になり高速バスで揚州に向いました。着いたのは６時頃だったと思いますが外は真っ暗、ネオンが煌々と輝いて居たのが印象的でバスを降りると数人の客引に取り囲われました。私は雨も降って居たし寒いので早く



揚州市街

ホテルに入りたく、中国のホテル事情も解らないので〇氏に任す事にしました。〇氏が決めたホテルはホテルと言うよりは宿屋の感じで１０分ほど離れた（中国では近く



比較的安いホテル

のと言うべきか）マンションの中に有りました。部屋はまあまあでしたが翌朝食事付だと言うので食べに行くと小骨の多い魚とパラパラの御飯等それはそれは粗末な物でした。庶民の食事はこんな物かと戦時中を思い出しながら食べました。〇氏に訊ねると彼は知って居たらしく早朝散歩に行った序に外で食べて来たとの事でした。中国の第一歩は田舎の木賃宿に泊まらされたらしく１ヶ月３０万円でお釣りが来るのも肯げ、先が思いやられました。〇氏も意外だったらしく（口ほどには中国通で無い）私の気持ちを察してかその後はそのようなホテルは選びませんでした。【私は今回の中国旅の経験から最低２００元は出さないとまともなホテルには泊まれないと思う】揚州で２日間過ごし市内を見て廻ったが取り立てて言う事もなく、〇氏の好みで朝鮮料理を主に食べて居たが、私には口に合い、「出すものを出せばけっこう美味しい物が食べられる、嫌いでは無いが改めて立ち寄る必要もない」と言うのが私の印象です。

次は青島ですが全く記憶が甦りません。著名な都市であり３日は居た筈ですから記憶が無いのはおかしいと思い地図等取り出して、その地図に載っている写真を見てやっと思い出しました。市庁舎の前に海まで達する大きな公園が有り、長い海岸線に沿って大きな新しいビルの連なる美しい都市です。浮山と言う高台が森林公園に成って居てその頂上にテレビ塔が有り四方が見渡せます。その中で書画骨董の展示会が有り、其処で引いた籤で半額券が当たり「なんとか言う著名な画家が描いたと言う５００元の絵を２００元に負けるから買え」と粘られ買う羽目に成りました。これが後々旅行の大きな障害に成りました。〇氏には別れる迄「何時捨てるのか」度々言われましたが、初志貫徹日本迄持ち帰りました。



青島船着き場

次は煙台ですがこれ又全く記憶に有りません。大連行ききの船の事は良く覚えて居るのですが、これは次回に譲ります。尚【１１号に編者が入れて下さった地図の青島と煙台が逆に成って居ります。そして場所ももっと海沿いです】読み直して居て気が付きました。

前回揚州は「取り立てて言う事は何もない」と書きましたが、会報が皆様の手が届いた頃 NHK の BS プレミアムで揚州の特集が有り、其れに依ると揚州は古い都市で日本にも関係の深い鑑真和尚の故郷である大明寺や古い町並が放映されて居りました。私達が目にしたのは新しい地区で肝腎の処は見落として来たと言う事に成ります。極めて残念でした。

話を元に戻して煙台から大連行の船は23時50分発かなり大きな老船であちこちにペンキの剥げた処が有りました。乗船者の長い列が続き乗船完了まで1時間は裕に掛り、まあ何人乗って居る事やら！私達は4人部屋の1等客ゆえ問題は無いが通路は酷いもの一般客（詳しいクラス分けは解らないが2等以下の大部屋客）は大勢が詰込まれる為、後から来た者は足を延ばして寝る場所が無いのでこの人達が出入口付近の公共の場所は勿論、知恵有る者は上級階の通路の方が心地良いと侵入して来る訳だ。船会社の方も多分定員をオーバーして乗せて居るのだから何も言わない。乗船後の通路は暫くは喧しいが1時間も経てば収まる。郷に入れば郷に従わざるを得ない。堪らないのはトイレだ。床が水浸しである。汚水なのか、清掃後の残り水か、はたまた航海中の波飛沫か、とにかく気持ちが悪い！1回目を書いた「船旅の奨め」には反するが、国内航路の船には危険度やその他色々考えると乗りたくない。（陸路は大幅遠周りに成るのでこの航路は乗らざるを得ない）



大連港に着いたのは夜も明けきらぬ6時頃である。小雨が降って居た。迎えの人が来るとの話だったが来て居ない。0氏は2・3度電話して居たが通じ無い様だ。心細さが募る。電話が通じ行動を開始するまで小1時間掛った。日にちを1日間違えて居たとかで何とも頼りない話。その友人が手配して呉れたホテルは大連の中心部にある大連五一国際飯店（五一はメーデーの意味）四つ星だと言うがこれも一寸怪しい。この辺りは戦争中、大広場（現 中山広場）を中心に満鉄や横浜正金銀行（現 三菱東京 UFJ）等日本の主要な企業が軒を連ねて居た地域で看板は中国の一流企業や官庁名に変わって居るが建物は今も隆々として残って居る。格式あるヤマトホテル（現 大連賓館）も同じ四つ星だと言うから不思議だ。



ホテルの食堂で朝食をとり疲れて居たので風呂（中国のホテルはシャワーだけの部屋が多いが0氏が特に風呂の有る部屋を希望、理由は後々に）に入り昼頃まで寝る事とした。一寝入りした午後、すっきりした気分夕方までホテルの周りの公園や街並みを散歩を兼ねて見て廻った。雨も上がり公園の樹木は新緑の季節、特に中国の公園は色取り取りの草花が多く植えられて居り非常に美しい。風景写真を多くとったのだがカメラを盗まれ、これらの写真を皆さんに披露出来ないのが残念です。



5時半に美羅大酒天（ミラマーホテル）で0氏の友人と待ち合わせ食事をする。このホテルは大連一のホテルの由でビジネスマンや俄か成金が社交場として利用するらしく、正装の紳士や淑女が多く看られる。一目で大連在住の日本人会社員と若い中国人女性も幾組が見ました。ラフな姿の私達には一寸晴がましい。食事をしながらの会話の中で、翌日私は彼と共に旅順へ、0氏は以前行った事が有るとかで別々に行動する事が決まりました。



当地で貰った案内図に「旅順口—中国半部近代史」とある。つまり平たく言えば旅順は（明治以後の）中国歴史の半分を占めると言う意味である。私自身今回の旅行をする迄は日露戦争の激戦地が何故中国なのか良く解らなかつた。1985年日清戦争（下関条約）に依って日本が得た遼東半島の領有を、露・仏・独の「三国干渉」に依って清朝政府に返還させる事に成功した。その見返りに、ロシアは清朝政府から逆に同地の鉄道施設権を得るだけで無く遼東半島南部の25年間の租借権迄も得て旅順港を含む同地を次第に要塞化して行った。これが私の知った1904～1905年の日露戦争に繋がる歴史で有ります。

さて旅順まではホテルから約1時間、O氏の中国人の友人S氏と四方山話をしながら同地に着きました。O氏の話では見学出来るのは203高地と水師営等極限られた場所のみと聞いて居ましたが、特に制限や検問も無く港を背景にした写真も何枚か撮りました。S氏と同道した為でしょうか？以下に主だった観光場所を紹介して置きます。

203高地—森林公園の最高部に砲弾を台座にした慰霊碑と戦勝を祝う「爾靈山記念碑」や砲台、日本軍が作ったと思われる戦勝の経緯を記した石碑等が有り旅順港の一部が見渡せます。良く整備されて居り、中国人から傷つけられた様子も有りません。俄（ロシア）軍も同じ敵、ロシアは信義を守らぬ国ゆえ、日本軍以上に嫌われて居たのでしょうか？



203高地から旅順港を見る

水師営会見所—言わずと知れた乃木大将とステッセル中将が終戦の会談をした場所。（乃木將軍が敵將を対等に敬意を尽して扱った事でも有名）。1996年に当時の資料（水師営は清軍の駐屯地で野戦病院が有った）を基に再建した由、会見後ステッセル中将から贈られたアラブ産の白馬（乗ってきた馬）を繋いだと言うなつめの木だけが当時からのものである。



東鷄冠山北堡壘



爾靈山記念碑

東鷄冠山北堡壘—203高地と並ぶ激戦地で「旅順日俄戦争陳列館」、日本軍に破壊された要塞や司令部跡、砲台や大きな戦勝記念碑が有り、こちらの方は大激戦地であった事が偲ばれます。

日俄監獄旧址博物館—ここが私の一番のお勧めです。朝鮮統治に関しての衝突が原因の朝鮮出兵と日清戦争～第二次世界大戦終戦までの反抗者やスパイ等主として政治犯用の刑務所。この間に起こった事件の経緯や処罰が時系列順に詳しく述べられている。拷問や刑具、拘禁部屋や刑場の展示、執行の方法や遺体の処理など残虐無慈悲な戦前戦中の刑務所の様子が事細かに知る事が出来る。眼を反らせないで見て置くことをお勧めします。



日俄監獄旧址博物館

旅順に行く途中に

棒棰島—大連市の南東部に位置する高級リゾート地で要人の避暑地でもある。棒棰島賓館（ホテル）や会員制の海水浴場やゴルフ場などが有る。ビールの銘柄にも成って居る。



大清花餃子

星海公園—日本統治時代の1909年に星が浦公園として完成した大連で最大の海浜公園。

大清花餃子—中山区55路5号 水餃子の有名店として紹介され、其処で夕飯を食べた。大連は水餃子が有名で各種の水餃子が取り揃えられて居る。大変美味しかった。

翌日午前大連を発ち高速バスで一日がかりで夕方丹東に着きました。途中から雨も降り出し地図上は海岸線ですが海は所々しか見えず殆どが広い田舎道、霧がかかって鬱陶しい一日でした。駅前には例によって数人の客引きが居てO氏との駆け引きが始まりました。決まった宿はまあまあの処でホッとしました。しかし翌朝トイレが詰まり困りました。



丹東市は鴨緑江の河口の町で北朝鮮新義州市の対岸に有り同市と、「鴨緑江大橋」で結ばれて居る。以前はもう一つ「鴨緑江橋梁」と言う船の行き来の為に中央部が90度回転する珍しい大橋が並行して有ったのだが朝鮮戦争で米軍に北朝鮮側が破壊されそのまま放置、今は「鴨緑江断橋」として対岸に渡れぬ橋として観光名所に成って居る。この地域は朝鮮族の居住地で町全体が朝鮮の一部の様で脱北者が逃げ込む町だ。土産物店には蓮池さん等の襟章で名高い金日成バッジが堂々と並べられて居り異様な雰囲気である。



私の最も関心事は北朝鮮側の様子である。江幅は約1000m中国側はコンクリートの岸壁で小型の遊覧船も出て居てすっきりして居るが北朝鮮側は岸壁の前約300mが木や草で覆われた河原で有る。人が潜むには最適の様だ。岸壁に連なる丘には2カ所程見張り小屋か兵舎と思しき建物が有り、極稀に警備兵の様な人物の往来も見られひっそりして居る事から岸壁全体が立ち入り禁止地域に成って居るのではないかと思われる。遊覧船は対岸近くを航行して呉れる由、好奇心をそそられたが銃撃でもされて命を落としてはと思ひ持参の双眼鏡での視察に留めた。町中の見物は遠くは定額5元のタクシーと近くは徒歩を併用、食事はO氏好みの朝鮮料理にづーと付き合った。他に山岳の名所も有った様だが、天候不順とO氏に余り関心が無い様なので実質二日で切り上げ次の訪問地集安に向かった。



集安市は高句麗の遺跡が多く在り古代歴史の宝庫と言われる地で、私が唯一O氏に希望してコースに入れた。中でも「好太王碑」は中国の「三国史記」及び日本の「日本書紀」を補完する物として有名且つ貴重である。碑には高句麗第19代広開土王の業績が克明に記されて居り「好太王碑」を特に有名にしたのは、王が倭（日本）と百済の連合軍を討破るのみならず後の戦では倭軍を大破したとの行（くだり）が有り、その行の一部風化脱漏？を第二次大戦中に日本軍が自国有利に改ざんしたとの韓国？歴史家の発言から論争が巻き起こった。当時は野晒で手に触れる事も出来たが今はガラス張りのお堂の中に入れられ保護されて居る。尚これの実寸レプリカが生駒山麓に在る大阪経済法科大学に有るので興味ある方は見学されると良い。この外將軍塚、丸都山城、ウ山貴族墓群（ウは属の？垂れの無い字を書く）、集安市博物館、長川壁画墓等一日十分掛る。紙面が少々残ったので参考までに：一部の地元タクシー運転手はタクシー代幾ら、入場券代幾らと請求するが、実際には入場券は買って居ない様だ。各施設の切符切り屋と結託してうまく潜り込ませて居る様だ。又顔が利かない場所では5か所のうち3か所しか入らなかった客の入場券を回して居る様だ。そんな入場券を何枚も持って居るのを見た。見学場所が複数に成って居る入場券の方が割安だと勧められるが、全部回れなかった場合は1か所宛の方が得かもしれない。



私の中国独り旅より(12)

川島章嗣

私の手記も今回で12回に成る。12回と言えは1年間連載をしたと言う事である。会報に1回は何か書けと言われ、仕方なく1回限りの積りで書いた「船旅の奨め」が会長に「出来映えが良いから次も書け」とおだてられ、更には「貴方の投稿を楽しみにしている人が居る」等と持ち上げられ、何時の間にか連載に成って仕舞った。毎月締め切りに追われての寄稿は文章を書き慣れて居ない私には正直大変だ。作家の気持ちが良く解る。

さて言い忘れたが丹東から集安行きのバスの中でハルピンに留学経験が有りその時友人に成った中国女性に会いに行くと言う日本人女性に会った。O氏以外で日本人と話すのはこの旅で初めてである。色々話し合ったが独り旅をする上で役に立つ事柄を紹介して置きたい。目的地に着いたら先ず予算に合ったホテルを探す。値段が合えば決めるのでは無く、必ず部屋に案内させ良く点検した上で決める。中国のホテルは当たり外れが激しい。(事実集安で泊まった翠園賓館は宿賃は240元だったが設備や立地を考えると非常に安かった。)ホテルが決まったら次の訪問地への交通手段と切符を手配する。それが済んだら時間の許す限り思い切り遊ぶと良い。



この女性の出現により、現地女性からの誘い?に依り、かねてより私との別行動を希望して居たO氏はこの時とばかり一層強く迫ってきた。即ち彼女は「川島さん位の語学力が有れば独り旅は可能。独り旅もまた楽しい。川島さんやってみなさい!自信が無いなら瀋陽に行って半月程短期留学してそれから始めたら良い」等とけし掛けられ、今回の旅は自分で準備をせずO氏のプランや指示に従う事を条件の旅行だったがO氏の気まぐれな言動に振り回され続けた事も有って、別行動はこちらも希望、出来得る事なら私もやってみみたい気持ちは大いに有り、決断を迫られる事となった。結論としては長春に着いた時点で3人とも別々の行動を採る。私としては瀋陽よりは1日だけだが大連で行動を共にしたS氏の居る大連の方が安心と思い大連に戻り、短期留学する事に決めました。



彼女の提案で集安から長春迄は鉄道を利用する事にし、途中の乗換駅通化迄は2時間程の短距離ゆえ硬車(普通車3等?)通化から長春は軟車(4人部屋の1等寝台)にしました。日本の様な旅行社は無く、集安駅での手配は想わぬ程に時間が掛り(乗換や等級変更の有る切符手配は言葉が堪能でない日本人には無理)列の後に並ぶ人に迷惑がかかります。



日本人には耐えられない光景ですが、中国人の場合は迷惑を掛けても、掛けられても平気なのは驚きます。硬車の中は乗り降りが激しく、見知らぬ人同士でも和気あいあい、食べ物なども出て来て席に座われさえすれば楽しい社交場です。賽銭用に持参したアルミの1円が大いに役立ちました。しかし中には車窓の外に現れる旧日本軍の施設を指さして「自分の親兄弟は日本軍に殺された。」と言う人も居り、「お気の毒でしたね。私は子供だったので戦争中の事は詳しく解らない。」と逃げを打つのが精一杯と言う場面も有りました。

長春着は翌朝、ホームで写真を取り合って約束通り別れました。長春は旧満洲国の首都が有った都市です。詳しくは次回に!

私の中国独り旅より（13）

川島章嗣

今回よりが正真正銘の独り旅の開始です。「〇氏の立てた計画に文句を付けずについて行く」を条件に始まった長期の中国旅行、詳しい事前調査もせず、言うならば無謀旅行の始まりです。唯ずぶの素人と違う点は過去20回以上の団体旅行の参加と、中国語が少し解る事、後一つはこの2週間見聞きした個人旅行のやり方だけです。ガイドブックさえ持って居ません。別れ話が出た頃より探し始めたのですが、大連等の大きな店でも日本語のものは見付ける事が出来ませんでした。地図だけは行く先々で買い求めました。（ホテルによっては無料で呉れる所も有った）

さて〇氏より紹介された駅前には有ると言うホテル、探せども探せども有りません。無い筈です。長春駅は一部の列車の降車ホームの出口が300mほど離れて居り、過去殆ど鉄道を利用した事の無い私は駅の規模が解らなかつたのです。何人もの人に尋ね漸く探し当てたそのホテルは、建物は有りましたが3年程前に倒産し廃墟でした。朝食を取りながら地図を広げホテル探しを始めました。行ってみるとそこは中国人専用、外国人は泊めてはならない事に成って居るとの事でした。駅の中にも有ると言うので其処へも足を運びましたが、旅行者歓迎の看板にも関わらず外国人は駄目でした。この店の紹介で駅から少し離れた「春誼賓館」に向かうと前回の女性が入口から出て来る処、「別の所を探す」と言って去って行きました。この女性に教えられた通りに部屋も見ましたが何処と言って欠点は無く、ただ宿賃を値切っても頑として応ぜず、これが彼女の立ち去りの理由だった様です。利点の一つが有りました。高速バスのターミナルが直ぐ近くに有った事です。



「春誼賓館」
チュンイーホテル
(旧ヤマトホテル)

ホテルで休憩の後、午後大連行き的高速バスの切符を買い、その足で例の方法（往復2元）で市内の中心部を観光しました。所要時間約2時間、まだ日も高く後1回位は出来ると、行き先が何処かも考えず、来たバスに乗ったのが間違いの因、大変な目に遭いました。初めは変化する景色を楽しんで居ましたが2時間過ぎても終点に着かず、その中乗って来る人が料金を払いだしたのを見て不安に成り始めました。乗客が減ったり増えたり、一時は海か河か解らない様な所（橋か？）を走ったり、その他――、時間も6時を過ぎ空が暗くなって来ました。終点に着いた時は外はとっぴりと暮れ、運転手に降りろと言われたがこんなへんぴな所で降ろされたら野宿せねば成らず獣に襲われる危険も有り、粘りに粘って兎に角バスの行き着く所迄連れて行って貰う事に成りました。中国語が少し話せる事のお蔭で運転手も私が日本人の旅行者で有り、独りで始めて長春に来て春誼賓館に宿をとって居る事等やっと理解して呉れた様です。



高速バス(例)

行った先は営業所で、14・5人の運転手等が珍しそうに私を取り囲みました。初めは恐怖が先立ち、筆談で必死でしたが全てのバスが帰着した後、彼らを家まで送る班車（私もその時初めて知ったのだがバンチュウと読み、会社や学校が関係者を送迎する自家用車やバスの事）各方面別に2・3台出るのでそれに乗って行けとの事でした。途中からは副所長らしき人が昔日本に来た事が有る由で片言の日本語が話せ会話が弾みました。

1時間ほど待つてその1台に乗せて貰い3・40分たった頃から見覚えのある景色が現れて来てホッとしました。運転手がここで降りてタクシーで行けと言うのでその様にしました。降りる時お礼だと言って50元渡しました。大変な物入り（日本円に直せば薄謝）でしたが一時はどうなる事かと思いました。ホテルの傍の一杯飲み屋で夕飯を食べホテルの部屋に着くと疲れがどっと出て風呂も入らずそのまま寝ました。この様に独り旅一日目は大変な一日でした。「明日からはより慎重に！」と反省と覚悟をしました。

疲れがどっと出て翌朝目が覚めたのは9時前でした。急いで食堂に行き（中国のホテルは朝食付きで時間は大体10時まで）朝食を済ませ部屋に帰って朝風呂に入りました。裸で汗の引くのを待ちながら、集めた旅行案内チラシを見ながらその日の行動計画を立てました。行先は「偽満皇宮博物院」（偽は傀儡＝かいらいの意味、満皇宮とは満州国皇帝の住まい＝宮城）前日のタクシーが意外に安かったのでホテルの前からタクシーに乗り同所へ行きました。タクシー代は何と9元、人の良い司机（スーチャー＝運転手）だったので10元札をあげると窓口まで案内して呉れて窓口の係に二言三言。パスポートを出せと言うのでパスポートを見せると掲示の料金の半額の40円で入場が可能となりました。多分自分一人で窓口に行き下手な中国語で一張（イーチャン＝1枚）と言って居たら80元払わせられて居たと思います。



日本語の案内機を借りて（借り料20元、保証金100元）場内に入ると中は乗馬練習場等も有る広い敷地、何しろラストエンペラー溥儀の住んで居た宮殿です。（正しくは仮宮殿で、新宮殿は建設中で有ったが終戦時も未完成の為、ここが結局本宮殿）日本の皇居の規模を想像してみてください。それより更に広く、大きな建物が7・8棟あり、その中には第2・第3夫人の住まい（2・3室の大きな部屋から成り立って居る）等も有り、よく保存されて居ます。特定の部屋以外の部屋には系図や写真、備品等が色々展示されて居りました。一々説明は出来ませんが、一度はここを訪れ見学されては如何でしょう。



特に記憶に残って居るのは、文面は忘れましたが棟と棟との間の中庭に江沢民が作った横長の巨大な石碑に中国人は「この現実を忘れるな！」云々と言う様な日本人に対する批判が書かれて居ました。彼は来日時に皇居でも憎まれ口を言った様ですが、日本人に対して特別な恨みが有るようです。



5時で閉門、4時半頃に成って気づいたのですが敷地の隅に大きな新しい建物が建って居ました。中に入ると日本軍が行ったと言う悪行の数々の写真や模型の展示場でした。駆け足で見たのですが事実は事実として見極めたかったのですが時間が有りません。誇張も有ると思いますが又の機会にはじっくりと時間を掛けて真偽の程を見極めたいと思います。

長春には「偽満州国」を冠せた建物が沢山有ります。全ては満州国建国時代の官公署の建物ですが当時のままによく保存されて居るようで、その大半は吉林大学の施設に転用されて居るようです。予備知識が無かったので、到着と同時に2日後に大連に引き返す事を決め、既に切符も買い、S氏にも連絡して仕舞った為、今回の滞在は2日しか有りませんでした。1週間位は取って置くべきでした。

帰国してから知ったのですが、前日私が遭難？したのは「浄月潭」と言う200k㎡からなる森とダム湖の有るとも美しい風景区、林海公園の一部だった様でこれまた気付かずに見過ごして帰った事は返す返すも残念です。長春は今回の旅の失敗から再度訪れてみたい都市の一つです。



翌日長春は雨降り、霧雨の中を10時半のバスで再び大連に向いました。所要時間は8時間半と聞いて居ましたが実際には10時間半掛りました。空は暗くなりバスは予定の時刻を過ぎても到着の様子無くひた走る。S氏に連絡の手段は無く気をもんで居ましたが、9時間を過ぎた頃S氏よりバスに連絡が有りホットしました。到着した大連も同じ様な天候、S氏に待たせた事を詫びるとあまり気に掛けて居ない様子、食事をしながら一人で大連に戻って来た経緯等を話す中でこの件に触れると、乗車券記載の到着時間は目安で始発駅の出発時間は正確だが到着駅での遅れは当たり前、出迎えにはむしろ早着の方が問題有るとの事、又一つ中国の常識を学びました。

S氏は中国語の学校は当てが有る、1ヶ月も滞在するのならホテルも安い所に替わった方が良いので探してみるとの事、明日は1日ゆっくりせよと案内して呉れた宿は例の大連五一酒店でした。翌日午後電話が有り「明日10時に迎えに行くからチェックアウトして待つ様に」との事、案内された学校は1日2時間で60元、1週間単位で3教科は必要との事で別に予定もないので取敢えずは言われるままに2週間だけ予約しました。3週目を保留したのはビザの切り替えが有るからです。ホテルは学校の近くの中国人用（外国人を泊める場合は近くの交番に届け出が必要）で1泊150元。予定宿泊分の金額を保証金の形で預ける条件（中国での宿泊は通常宿賃の他に同額の保証金の差し入れが必要）にしてくれたので3週間21日分を前払いし（預け）ました。これにて午前中は中国語会話の勉強、午後は中国社会の見聞の生活が始まりました。既に最初の頃書いた飲食事情や交通事情は殆どこの大連で見聞きした経験です。以後はこれらとダブらぬ様、大連のトピックスをお伝えしたいと思います。



まずホテルの近くに大連森林動物園行きバスの始発駅を見つけました。所要時間は約1時間余り1元で行けます。6つのエリアに分かれて居りパンダ（大熊貓）が特に呼び物です。メインゲートの入場券売り場の上の掲示に中国語で60歳以上半額、70歳以上無料と書いて有りましたので、試しにパスポートを提示し73歳と告げると入口の方へ行けと指さすので入口の係員にパスポートを示すと黙って中に入れて呉れた。詰まり外国人にも適用されると言う事だ。案内図を見ると一部のエリアは隣の山上に有る。一旦外に出て一山越えの長いロープウェイに乗る。そちらの方も係員にパスポートを見せるとフリーパスだった。途中で出会った日本人駐在員の家族にその事を告げると今まで知らずに正規料金を払って居たと残念がって居た。中国語を勉強して居たお蔭である。その後公共的建物ではパスポートを提示する事にして居るが大抵の所で無料か半額に成る。覚えて置くと良い。



このルートは市内の中心を走るかと思えば高台有りと色々景色が変わり動物園の手前では海岸線を走り景色の良い銀沙灘や傅家莊公園等を経由する。夫々夏になると大海水浴場に変り芋の子を洗う様なにぎあいを見せると言う。私好みで四回もこれらの地を訪れた。



私の中国独り旅より（16）

川島章嗣

今回は現地でのビサの延長手続きに苦勞した話を紹介します。特殊なビサは別にして中国の観光ビサは15日未滿は不要、それを超えるとビサが必要で1ヶ月（滞在期間30日）迄は在日の領事館で3000円払えば発給されます。1か月を超えて滞在する場合は現地の公安局出入境管理処で延長手続きをする事に成って居ます。その発給条件は1回限り期間30日以内。延長ビサの起算は申請日からカウントされるので現有ビザを有効に活用、且つトラブル有る場合に備えて現有ビザの切れる3日前の6月2日に大連の事務所に赴きました。必要書類はパスポートは言うまでも有りませんが他に



大連市公安局出入境管理処

イ、2インチ×2インチの写真2枚

ロ、滞在ホテルの証明書（個人の家の場合は？）

ハ、滞在日数×\$100. ーに見合う所持金の提示

が必要です。私の場合O氏の指示で50万円のT/C（トラベラーズチェック）を用意し必要の都度小口換金して居ましたのでT/C残だけでも30万円以上あり他に現金とキャッシュカードも持って居たので何ら問題なしと思って臨んだのですが、ハ、に関して私の提示したT/Cがトラブルの原因に成ったのです。係官の言い分によると「円（外貨）と元以外は駄目」だと言う。そんな馬鹿な話が有るかと思いが下がったがT/Cを見た事が無いと相手にされず、後の客の迷惑になると思い一旦は引き下がったがビサが得られぬと大変な事になると思い返し3つ有る別の窓口に行きました。この窓口の係官も概ね同じ事を言う。唯折衝の過程で先の係官と相違する点は「外為銀行で外貨預金をし、その証明書を持参せよ」と言う点が異なっていた。日本に於いて外貨預金等した事の無い私にはその結果がどうなるのか——円預金が出るのか、他の外貨に換えた場合の手数料が幾ら取られるのか？、等々走馬燈の様に次々懸念が頭



円建て T/C (Sample)

の中を駆け巡りました。入管に来たのは9時前その間に要した時間は2時間余りお昼前に成ると流石に入管も暇に成り客は私一人に成りましたので傍に居た手隙の係官達が何でもめて居るのかと言う顔で集まって来ました。

此処で引き下がっては私（日本人）の恥と私も身振り手振り中国語英語日本語の混じった筆談を交えた会話を駆使して頑張りましたが結論は得られず、12時に成ると一斉に私の前から去って行きました。取り残された私のがっかりした姿を想像してみてください。言葉の通じない悔しさを骨身に感じました。本当に疲れました。気を取り直し如何にすべきか考えた時、S氏を呼ぶしかないとの結論に達しました。電話をして「T/Cを現金化せよ」と理不尽な事を言われて居るがそんな事をしたらT/Cの意味が無くなると我が意を述べると「解った。行く事は出来ないが何とかするから其処を離れず待つ様に！」との事、食事も取らずに其処で待っていると1時半頃に電話が有り日本語の話せる人が行くから窓口近くで待つ様にとの指示、程なく「川島さんは居られますか」との声、「こちらへどうぞ」と別室に通され奥から管理職らしき役人が出て来て先の役人（通訳か？）



中国「元」



と2人で

私の主張を聞きました。T/Cを貸せと言うので手渡すと奥に入り小1時間も待たされた後、始の役人が戻って来て「結構です。ビサを出します」との回答、窓口へ戻るとその役人が二言三言窓口の役人に指示すると後は速いものでこの紙を持ってあちらの会計で手数料を払う様にと言われその様にすると、聞いて居た160元より20元高い。文句を言ってやろうと渡された書類を良く見ると、なんと宅急便の料金が含まれて居る。そして翌々日にはホテルでビサ30日延長付きのパスポートを手にする事が出来ました。（次号に続く）

私の中国独り旅より（17）

川島章嗣

前回は紙面の都合で最後が曖昧に成り私の言い度い事が言えて居りませんので先ずこの点を述べたいと思います。

中国は世にも不思議な国です。大連の様な古くからの貿易港に有る入管の役人がT/Cを知らない。窓口だけかと思いきや管理職の役人にT/Cを渡してから結論を出すのに約1時間掛った事。多分他の役所にT/Cに就いて問い合わせたり、合議に手間取ったのでしょう。私が不思議に思うのは1日\$100。一の証明に今までT/Cの提示が1件も無かったのかと言う事です。多分私に対すると同様高飛車に現金以外は駄目、T/C提示の者には理不尽にも外為銀行に行って現金化させ、或は預金証明書を持参させて居たのでしょう。旅行者の方も又「長いものには巻かれる」でそれを容認して来たのでしょう。（旅行社に頼めば簡単に行ったのかも知れない。そう言えば個人客はあまり見掛けなかった。）



× or ○



一方S氏は何処の誰に電話をして呉れたのか？S氏は日本への留学経験もあり、現在個人で貿易の仕事をして居る。直後にお礼を兼ねて食事をした時に聞いてみたのだが、直接入管に電話をしたのでは無いらしい。中国には人民の暴発を未然に防ぐ為に人民の不満を聞き、不条理な事を是正する機関が有るらしい。その役所の知人に連絡を取ったそうだ。O氏から以前「彼は大連市の元市長が高級役人の息子なので保険の積りで付き合っている」と聞いた事が有る。S氏自身も兄弟4人？（親の代か？）で周りは役人ばかり、面白くないので自分は貿易を選んだと言って居た。歳は若いけど周りに有力な人物が居るのかも知れない。兎に角対応した高齢の役人が積極的に動いたのを見ると、苦情処理の役所から善処せよとの強い指示が有った事が想像出来る。コネと顔、それに中国の民主的な一面を見たような気がする。

いずれにしても私の粘り勝ちが切っ掛けでビザ取得の一つの障壁が取り払われたとすれば、後々の旅行者に貢献する事になり、自称「現代社会の不条理と不公平を正す会・会長」としてそれが中国でも花開いた事に成り極めて満足である。とは言え中国に於いては換金出来る銀行に制限が有り、両替に時間が掛るので私としては余りお勧めしたくない。

出入境管理处を出て最寄りの駅までとタクシーに依頼すると快軌（線路）の駅に連れて行って呉れた駅名は忘れたが大連火車站から二つか三つ目の駅で快軌は大連（火車=汽車）駅の裏側から出て居る新工業開発地帯に向けた高速鉄道で途中の開発区駅から金石灘駅と九里駅に分かれて居り料金も区間によって異なる。大連駅から金石駅までの料金は8元、安いものである。



大連駅



高速鉄道



新工業地帯



金石灘駅

数日前日本と同じ積りで各駅でホームに降り写真を撮り次の列車に乗るを繰り返して居たら2時間を超過居るとして改めて8元徴られた。中々厳しい。駅前の食堂で時間を見たら午後4時前であった。ビサの切り替えが1日仕事であった事を記憶して居る。大変な1日であった。

今回の旅行の主たる目的の一つであるチベット行きのためには大連よりは北京の旅行社に頼む方がよいとのS氏の勧めにより6月9日11時高速バスで北京に向いました。



北京のバスターミナルに着いたのは夜の9時頃でした。一通りの乗客が立ち去った後に私の様な旅行者を待って居たのは雲助タクシーだけでした。大連で会い送別会までしてくれた日本語の勉強をして居る学生が北京には手頃な値段で泊まれる如家快捷酒店と言うチェーン店が至る所に有ると聞いていたので彼等に値段を聞いてみると80元とか100元とか正規料金の約10倍を言う。それらのタクシーに乗って去って行った人も有りますが私は正規のタクシーを待つ事にしました。30分程待って乗車したタクシーに最寄りのルージャ店に行って呉と頼むとワンメーターでそのホテルに着きました。「一寸待て」と言うので車内で待って居たが中々出て来ない、メーターの上がるのが気に掛りフロントに行くとか何かもめている様子、嫌な予感がしたが良く聞いてみると何と親切な運転手でその店が満室なので空いて居る他の店を斡旋する様係に電話を掛けさせて居たのである。そして程無く空き部屋の有る店に案内して呉れた。タクシー代は高く付いたが甚く感激、万博の期間で御上からの指示は有ったと思うが今の日本で運転手やフロントが此処までして呉れるだろうか、チップを弾んで別れ、チェックインを済ませ近くの食堂で食事を取りシャワーを浴びて床に就いたが何とも心温まる特記すべき1日であった。



翌朝中国一の国際旅行社を訪れチベット旅行の手配を申し込んだが外国人の個人旅行は扱って居ないと断られた。親切な担当者の女性が^{フウカイ}婦女旅行社なら引き受けるかもしれないとその事務所の所在地を教えてくれた。後で知ったのだが婦女旅行社は中国3位の規模、日本向けの旅行では可成りのシェアを占めているらしい。唯中国に於いては国内旅行だと独断し国内旅行の部門を窓口にしたのがまずかった。この事に就いては後刻述べる事とするが兎に角旅行開始は12日後、行きは北京から鉄道（高山病予防の為）、帰りは上海まで飛行機で、費用は日本円換算約7万円を支払った。交渉の終わりに成って言葉が通ぜずとして日本語の話せるスタッフを彼等が呼んだ事に依って彼等に海外旅行部が有る事が解りそこを窓口とした方が良かった事が解った。



海外旅行部のスタッフと会った事により^{フウカイ}婦女旅行社の近くに北京最大の歓楽街王府井（ワンフーチン）が有り、北京^{カオヤ}烤鴨（ダック）で有名なレストランの「全聚德」では半身の烤鴨が食べられるとの紹介を受けそれを食べて来た。そこでは燕京ビールが大連の屋台の5倍の値段で売られて居た。今回の旅行の食事で最高の豪華版で如何にも散財した様だがそれでも200元足らず、日本円に換算すると約3000円とは実に安い。満腹のほろ酔い気分夜景の街並みを見ながら王府井駅まで歩いて地下鉄とバスを乗り継いでホテルに帰りました。（往路に大昔に泊った事が有る北京飯店が有り懐かしかった。）



【参考】如家快捷酒店は北京市内に約80店その他の都市を含めると約100店を有する小規模ホテルチェーン日本でのビジネスホテルを想像すると良い。主要ターミナルにも近く「ルージャ」と言えば分る。小奇麗で宿賃は朝食付きで一泊300～500元。個人旅行にお勧めします。



先月は地元自治会の総会で自治会長を拝命しその引き継ぎや何やで忙しく、その為我が自治会では行わない事が慣例となって居た花見を今年はやると宣言した為、原稿の締め切りをすっかり忘れて居ました。期限の3日後に会長から督促が来て始めて気付いた次第ですが予定は一杯、どうしても書く暇が無く、とうとう穴を開けてしまいました。編集者及び読者の方々に迷惑を掛け誠に申し訳なく思っています。

さて6月21日の羅薩（ラサ）行き迄の12日間を如何に過ごすか、その間に上海万博にも行かねばならないし北京も久しぶりである。雲南にも是非行きたい。色々考えた末、先ず昆明に飛びその後上海に廻り、北京は後回しにする事にした。

翌日昆明に向かう訳だがこの旅行記の始めの頃方針の決まらぬまま書いた2011年2月号の交通事情に着いて（3）と重複するのでここでは昆明機場（飛行場）に着いたところから話す事とするが、その前に私の知る雲南に就いて若干話して置きたいと思う。中国語では雲南省と書き人口約4千万人、面積は39万平方km、人口で言うのか面積で言うのか知らないけれど中国で3番目の大きな省と聞く。ベトナム、ラオス、ミャンマー、（チベット）に接して居り省都は昆明。56の少数民族の中26民族が住んで居り、それらの民族は日本人のルーツとも言われて居る。言われてみれば顔は確かに良く似て居る。少数民族の宝庫の上に観光地の宝庫でもある。その観光地を大きく分けると「昆明・石林」、「大理・麗江」コースがポピュラーだが他に元陽の棚田、瀘沽湖、中甸（シャングリラ）、端麗等が有名、良くは知らないがタイ族自治州の「西双版纳」コースと言うのも有るらしい。

話を元に戻して、昆明は僻地の田舎だと思っていたが何の何の大都会である。空港の中も人で混雑して居る。民族衣装を着て画板の様なものを持った女性何人か案内の様な事をして居る。民族衣装の女性は一寸おっかないので普通の服を着た女性に声を掛け、例によってまず行くべき手頃な値段のホテルの手配を頼んだ。二・三回電話を掛け車が迎えに来ると言うので待って居ると程なく車が着たがホテルの車では無い様だ。車中の会話から運転手は彼女（ガイド資格を持って居る）と組んで観光案内をやって居るらしく、翌日の予約を迫って来る。その中にホテルに着いたが例の外国人はダメの口だった様だ。そして次に案内されたのは四星の金茂酒店、一寸貴いかなと思ったが宿賃は一泊260元とそこそこ、ダメで元々と値切ってみたが矢張り駄目だった。一流の観光ホテルは万博の関係も有って何処も無理の様だ。男女がロビー迄付い

て来てねばるので、自分でバス等を使って観光した方が安くつく事は分って居たがこれも又勉強、人物も悪くない様なので市内観光案内1000元（協定料金）、車代500元の処を100元と200元値切ってカモに成りました。近くのレストランで夕食を済ましシャワー（しかない）を浴びて寝ました。



朝9時に迎えに来ると言うので朝食を済ましロビーで待つて居ると程なくやって来た。どう言う処が見たいかと言うので、市内の観光地全て特に風光明媚な処が有れば抜かさぬ様にと市内を1時間程ドライブした後、海辺の駐車場に車を止めロープウエーで山に登ると言う。ガイドと2枚の入場券代を請求されたが旅順をS氏と旅行した時に彼がガイドの入場料は不要だと言った事を思い出し、その旨を告げ券売所（ショウ ピャオ チュ）迄付いて行くと案の定不要、90元儲かった。入場券を見てそこが「龍門」の有る「西山森林公園」で有る事が解った。

長いロープウエイに乗って2500mの碧鷄山に登ると頂上付近に有る3つの古刹を経て行き着く断崖絶壁が龍門であり、其処から見渡す景色は絶景である。眼下に見える大海、実はこれが滇海（昆明湖）である。湖岸に広大な云南民俗村（後述）も見える。別のロープウエイに乗って麓の駐車場に着いたのは1時半過ぎであった。炎天下で（車外に出て日蔭で昼寝していた）運転手を長く待たせた事でも有り1人で食事を取るのもわびしいのでレストランに2人を誘うとついて来た。こちらは何でもいけるので、彼等に好きなものを注文させたら、3人でこんなに食べられるのかと思うほどの品数をオーダーした。運転手には飲ませられないのでビールは1本だけにした。話は弾んだが料理は半分以上残った。もっと食べるよう勧めたがチーパオラ（お腹一杯）と言う。若い2人に戦争中の子供時代食べる物も無くひもじかった生活を話して聞かせる。中国は今やっと先進国の仲間入りをした処、こんな無駄遣いをして居ると今に日本の二の前に成るとたどたどしい中国語で説教してやった。解ったかどうかは分からないが2人共神妙に聞いて居た。もったいないので汁物以外はビニールの袋に詰めて貰って持ち帰り夕飯と朝飯に供した。日本の髭のオッサンが2人と食堂の従業員（従業員）達にどの様に映ったか興味有るところだ。帰り道可なり大きい寺に立ち寄ったがその名は忘れてしまった。ホテルのロビーに5時頃着いて900元払って2人と別れた。ふと見ると石林行きのツアーの募集が有った。本当は未訪の麗江^{リジヤン}に行きたかったのだが、値段が240元と手頃。前に行ったのは20年余りも前の事でう覚え、故にこれを予約した。

翌朝8時ぎりぎりにホテルの近くの集合場所に行ったがバスは中々やって来ない。誰も居ないので始は一寸置いて行かれたかと心配したが同じバス待ちの人が何人か集まって来たので安心した。結局バスが来たのは8時半過ぎ慌てて出て来て損をした。途中陶器の展示館などを経て土産物屋の様な所で昼食、いよいよ石林の観光である。入口の橋を越えた所で解散、後は3時半まで自由見学である。私は足が悪いので20元払って場内回遊の小型バスに乗って見て廻った。バスは随所随所に停車して乗客を降ろし暫くの間景観を観察させて呉れる。色々の石いや岩、聳え立った岩は実に壮観である。終点は大きな岩に石林と書いた観光案内書に良く出て来る大広場である。前に来た時はその大広場を中心に付近の大岩を二三見ただけのツアーで有ったが今回は隅から隅までこんなに広い範囲に吃驚した。大広場もあちこちに抜け穴が有り大いに楽しみました。日本からの通り一遍のツアーとは大分違う事に始めて気が付き改めて一度来た所も再度じっくりと再訪の必要が有ると深く感じた次第です。



民俗村と言うと子供騙しのレベルの施設も少なくないが、雲南の民俗村は馬鹿でかい。

前回述べた西山の龍門から眺めた広大な面積はパンフに依ると83ha（甲子園57個分）もあり、雲南に居る26の少数民族の中8民族の村を再現して居る。各村の入り口では民族衣装をまとった男女が歓迎の音楽と共に
出迎えて呉れる。また共通の広場のステージでは日替わりで26各民族のショーが交代で行われる。休日ともなると2・3時間のショーが複数回行われるそうで観光の為には1日タップリの時間を要す。



この日の朝9時過ぎホテルを出て、それ程遠くないと言う昆明駅前に在るバスの始発駅迄徒歩で出掛けた。足が悪いのと土地勘が無いので道を聞きながらの為、結局乗り場を探し当てる迄40分程掛った。中国人の直ぐは日本人が考える4・5分の直ぐとは違い30分位掛る事はしばしば有るから注意が必要だ。平日だと言うのに可也混んで居てバスを2台見送った。この調子では現地に着くのが何時に成るか解らないので3台目のバスでは立つ事を覚悟の上で乗った。途中の停留所からも乗り込んで来るのでバスは超満員で有るが幸せな事に5つ目の停留所で前の席が空いて座る事が出来た。しかしこれがトラブルの始まりである。独り旅の緊張からかついうウトウトしてしまった。ごく短時間の様に思ったが30分以上寝て居た様だ。気が付いた時は立って居る客は殆ど居らずバスは2日前に西山に行く時に通った見た事の有る郊外の道を走って居て程無く民俗村前の停留所に到着し急いで下車した。リュックを担ぎながら民俗村の入口に有る大きな門の前まで来た。写真を撮ろうと思って腰のハードケースに手をやった時、蓋が空いて居り（普段は磁石式のボタンが閉って居る）カメラが無い。ズボンのポケットに手を入れてみたがここにも無い。リュックのポケットや中を調べてみたが矢張り無い。落としたか盗られたか一瞬考えてみたが落とす筈は無い。掏られたと思った途端強いショックを受けた。この旅の為に新しいカメラを張り込んでその足跡を皆んなに説明出来る様にと意気込んで毎晩充電し約650枚位撮ったのにそれがパーに成って仕舞った。来しなの船の中で読んだ旅行保険の説明書に依れば事故に遭った場合まず警察に被害届を提出して置かなければならない。気を取り直し案内事務所に駆け込み事情を話し近くの警察に行きたいと申し出ると、タクシーの手配をして呉れて居るのだと思いきや、暫し待て！公安のパトカーが来て呉れると言う。そのパトカーに乗って警察に向き被害証明書を入手出来た。帰りはタクシーで民俗村に帰り案内所のスタッフに礼を述べた次第だが、どうして入村したのか？入場料を支払った記録も無いし、パスポートを提示した記憶も無い。無料と言う事は無いと思うのだが？落ち着いたら腹が減って来て何かを食べたと思うのだがそちらの記憶も定かで無い。ショーを見に行ったらこれ又殆ど終わる所で頭に飾りを付けた4頭の象が会場を出て行くのだけは覚えて居る。他はと言えば5時の閉門まで駆け足でいくつかの村を見て廻った記憶丈は有るが個々の村の内容は覚えて居ない。買ったてのカメラを盗られキリキリ舞いした方の記憶はハッキリして居り、証明書のお蔭で購入代金の殆どは回収出来たが写真が無いのが実に残念である。この話を帰ってしたら、自分も昆明でパスポートとお金を盗まれ手続きと日本からの送金を受けるまで帰国出来ず往生したと言う人が居た。昆明は日本人の好む良い観光地だが盗難が多い様だから旅行に際しては呉々もご注意を！この地も又再訪せねばならない。

接待报警案件三联单（回执）					
案别:	盗窃		编号:	650206-226	
姓名:	川島章嗣	性别:	男	年龄:	73
身份证:	714118723				
工作单位:	无	家庭住址:	昆明市西山区西山区西山区		
报案地点:	云南公路局	报案时间:	2010年6月14日12时30分		
报案人:	川島章嗣(报案人) 云南公路局 报案人章嗣(报案人)				
报案电话:	13808710871				
报案人姓名:	川島章嗣				
报案人住址:	昆明市西山区西山区西山区				
报案时间:	2010年6月14日12时30分				
报案单位:	云南公路局				
报案人:	章嗣	报案编号:	138	经办人:	
备注:	请依法重保在此取				

盗難届を出した証明書

翌2010年6月15日9時の飛行機で上海に向いました。世博会（上海万博）を見る為です。世博会に就いては会報No. 95～97（2010年10～12月号）で特集済。
浦東空港は何ともだだ広い空港でターミナルが2つ有りその間徒歩で10分は掛ります。今迄は団体旅行でしたので市の中心へ行く迎えのバスが用意されて居たり、奥地への乗り継もガイドの指示に従って居さえすればそれで良かったのですが自分で全てをやるとなるとそれはそれは大変です。先ず宿探し、第1ターミナルに20店ほど旅行社やホテルの出先店が軒を連ねて居ます。ホテルを2・3当ってみましたが無れも満杯。空港の案内所に行き相談しましたら日本語の話せる案内嬢が別の階に有る知り合いの店？まで案内して呉れました。こんな手も有ったのかと又1つ知識が増えました。係員の言に拠ると「会場近くのホテルは全て満杯、有っても高い料金を吹っ掛けられる。快軌道（リニアモーターカー）や地下鉄の始発駅で宿賃も安いので空港近くのホテルにしては」と。成程と思いそれに乗ると290円で直ぐに見つかった。ホテルの車が迎えに来ると言うので所定の場所で待つて居ると程なく車が来ました。空港の近くと思いきや車はどんどんと郊外に向け走ります。まだか、まだかと2へん程尋ねるともう少し、もう少しとの返事。着いた所は小さな町のホテルでは無く平屋の申春と言う宿屋でした。上海は大都市故今迄の様に安くは泊まれないと思い300元までと言ったので、10元下の290元なら良からうと、まんまと引掛けられた気がしたが後の祭り、今更どうにもならない。空港までの送り迎えはして呉れるらしいので、諦めて部屋に入りました。部屋の中はダブルベッドを中心にテーブルセットなど小綺麗に纏められて居ました。窓には網戸が備えられて居り、外の景色は田畑で働く人達の姿が見てとれる田園風景。蚊取り線香が置かれて居たのが印象的でした。

食堂も有る様でしたがフロントの人に「何か美味しい料理を出す店は無いか」と尋ねると近くの食堂街の中華料理屋の地図を書いて呉れた。その店は小さな店で宴会用の円卓部屋が2つ、他は4人掛けの横長机席が7つ有り、私が入店して間もなく満席に成りました。メニューは漢字ばかりで（最近是中国でもカラー写真入りの物が多くなった）日本で知られる料理は餃子位しか無いが横に書かれてある値段がとにかく安いので安心して注文出来ます。ビールは大瓶（日本の物より少々量が少ない）、料理は見当を付けてオーダーするのだが大体当らない。1皿の量は程々だがそれでも3品が限度、私の経験では今日迄食べられないものは無かったのでビール2本と共に注文する。私が日本人で少々中国語が話せる事を知って話しかけて来たり、ビールを勧められたりするので一人でも結構楽しい。結局4日間通い詰めた。ラサからの帰りにまた来ると言うて別れたが結局実行出来ず残念です。

6月19日9時半発の飛行機でラサ行きの為再び北京に戻る。北京駅は4つ有り列車の発着を良く確かめないと大変な事に成る。ラサ行き列車の始発駅は北京西駅でその為駅の近くに有る如家の西客駅店を前以て予約して置いた。ここが今回の北京での根拠地である。

(注)

1元は約15円、
300元は4,500円です。

＝北京市【Ⅱ】頤和園い わ え ん＝

私の中国独り旅より（23）

川島章嗣

上海浦東空港から北京首都国際空港までは約2時間快軌と地下鉄を乗り継いで最寄りの駅軍事博物館に着いたのは午後の2時頃だったと思う。駅前の食堂で遅まきの昼食を済まし地図を頼りに如家（ルージャ）快捷酒店の西客駅店まで歩いた。地図ではすぐ近くの様であったがキャリーバッグを引っ張っての事ゆえ40分は掛った様に思う。通行人を捕まえて聞くと大通りでは無く裏道に在る由で少々行き過ぎて居た。チェックインを済ませ部屋で暫く休憩、日の陰るのを待って羅薩（ラサ）に行く時トラブルが有ってはいけないと思い北京西駅の視察に出掛けた。地図では倍以上の距離に見えたが30分も掛らなかった。大きな駅で入口は幾つも有ったがガードマンが切符の有無をチェックして居てとても入れそうにない。しかし見送りや出迎えの人も居る筈、入れない筈はないと思い返し探した処、1階にそれらしいところが有りガードマンらしき人は2・3人居たが手荷物検査機の横からすり抜けて中に入った。列車の掲示板で21日に乗る列車を確認し、列車毎に分かれて居る待合室やトイレ等の有りかを確認した。待合室の入口にも又ガードマンが居て切符をチェックして居たが堂々として入って行ったので特に呼び止められる事も無かった。中は大変混雑して居り椅子は満席、大多数の人は席が無く地べたに座ったり荷物を枕に寝ている人も多くいて何時もの中国の駅で見られる光景。流石に北京西駅は大きいと要らぬ感心をした。後で解ったのだが2階の各入口はVIP等の待合室に通ずる専用入口で有ったり、駅関係者の出入口で有った様だ。下見に来て良かった。帰りに駅下の便利店（コンビニ）で食料とビールを買って帰った。

明けて20日ホテルの食堂で朝食を取り10時前北京最大の公園、頤和園に向った。バスを乗り違えたので途中で乗り換えて何とか着いた。頤和園に就いて少々コメントして置くと広さは290万㎡（甲子園球場75個分）、全体の4分の3が人工の昆明湖と4分の1がその後ろに控える万寿山、裾野の湖畔に100以上の建物が並んで居る。悪名高い西太后が愛した別荘庭園、第2次アヘン戦争で破壊されたのを再建する為西太后が軍艦建造費を流用した為に日清戦争に大敗したとも言われて居る。入園料60元と地図10元を払って東宮門から入る。この入園料には徳園和、文昌院、楽寿堂から728m続く長廊（極彩色の花鳥風月が有名だが可なり剥げ落ちて居る）の中間辺りに有る排雲殿を抜けた処に有る仏香閣と山向こうに有る蘇州街の4つが（一般的な見学コース）セットに成って居り他の建物は無料又は個別拝観料が要るそう。頂上の智慧海迄登れば庭園全体を一望出来る。この様な広大な頤和園ゆえ時間は幾ら有っても足りない。半日歩いて蘇州街に着いた時はクタクタで足が棒に成って居た。地下鉄4号線が有る事が解ったのでそれに乗りホテルに帰りホテルで夕食を採りシャワーを浴びて早々に寝た。北京の観光は20年振りか？

明日は午前中に中国婦女（フーニー）旅行社に出向きラサ行きのキップと書類を受け取り夜9時30分北京西駅発の列車でラサに向かう。



昆明湖から見た
い わ え ん
頤和園

＝北京市からラサに向けて＝
私の中国一人旅より(24)

川島章嗣

6月21日朝食を済ませ、荷物の整理を行い、その日の行動に必要な物をリュックに詰め残りはホテルに預け、チェックアウトを済ませ旅行社に向った。着いたのは11時頃だったがラサ入りのビザが揃って居ないので5時に再度来て呉れと言う。本当に書類が完備出来るのか心配になり質した処、係りの者が今公安に受け取りに行っているからビザが有れば残りはこの通り準備出来て居ると言うので一安心、貴方の不手際故7時に北京西駅に届けさせる事にした。そうでないと故宮博物館や北海公園等その日の見物の予定が狂う。結局要らぬ時間を費やしたので午後は夕方まで北海公園（北京城を構成する宮廷公園で北湖、中湖、南湖から成り北湖の中に有る瓊華島の白塔は湖岸からの眺めが美しいので有名）の湖岸をぶらぶらと観光客に声を掛けたりしながら周遊しました。夕食をとり列車内で食べる飲食物を買い揃え、ルージャで荷物を受け取り、7時まえ西駅の指定場所に向かいました。7時を過ぎても旅行社の社員が現れず心配が込み上げて来た頃社員が現れ1件書類の受け渡しが完了し一安心しました。列車に乗る迄何かトラブルが有ってはと思い待合室に来る様誘い引き留めましたが用事が有ると体よく断られました。仕方なく一人で待合室に赴き雑踏の中で2時間を過ごしました。

20分前に改札が始まり、障害者、VIP、一般の順で入場、中に入って階段を下りるとホームにラサ行の長い列車が有りました。私が乗る車両は列車の中程でその座席番号の処に行くと既に中国人が居り、私の顔を見るといきなり自分の切符を出して「知人が居るので席を替わって呉れ」と言う。下段なら替っても良いが等級違い等悪い席だと困るので一応見てからにすると答えその席に案内させた。結果は等級も同じ下段で何処と言って悪い処も見当たらないので取り替えることに同意しました。寝台車は向かい合った2段の4人部屋、毛布と枕が付いている。何年もの間JRの寝台車にも乗った事が無いので現在の日本の寝台車と比較する事が出来ないが、概ねこの様な物だろう。荷物棚は上段に有り重いキャリアバックを持ち上げるのは並大抵ではない。今一つの不便なのは、下段は昼間は座席になり上段の人も座るので朝寝が出来ない事である。定刻発車いよいよ2日半の汽車の旅が始まる。半時間程してざわめきは静まり私も何時しか眠りに着いた。

翌朝5時頃目が覚めた。横になりながら窓の外を眺めると砂漠の様な原野の中を走って居た。時々小高い丘や建物も通り過ぎて行く。6時半になると漸く向かいの客が起きだしたので私も起きて洗面や用便等した。湯の出る場所が分かったので乗車前に買ったカップラーメンを作って食べた。量は多いが味は大分違う。美味しくない。それ故以後は社内売りや駅売りの弁当を買う事にした。内容物は大体分かるが、鶏の脚のように何処を食べるのか解らない物が含まれて居る弁当もあった。

話は元に戻るが向かいの客は30代?の若夫婦、オーナーか勤め人かは解らないがIT企業に關係して居るらしい。3日を超える休みを取って夫婦で拉萨旅行が出来た位だから新興成金かもしれない。彼等がSONYの望遠レンズ付き一眼レフのカメラを見せてこのカメラはどうかと聞くので一瞬答えに窮した。CANNONやNIKONなら知っているがSONYがカメラメーカーである事は私はその時迄全く知らなかった。二流だとも言えないので、不錯（プーツオ＝可也良い）と答えて置いた。日本に帰って早速調べて見たが一一眼レフはやはりあまり出回って居ない様だがデジカメはトップ水準と聞いたので盗られたカメラの代替えとして早速買い求めたが、扱い方が多々有り未だ十分には活用出来て居ない。

北海公園にある瓊華島(けいか)の白塔の写真



＝青海・西藏鉄道＝
私の中国一人旅より(25)

川島章嗣

話は前後しますが掲題の鉄道はゲルモからラサに向けて2006年7月1日開通した世界一の高原(海拔4000m台)を走る鉄道として有名で高山病予防の為に車両に特別な気密性や酸素補給等の処置が施されて居るそうです。

一夜明けた朝列車の廊下で日本人らしき人が行き来するので声を掛けた処、東京の旅行社が募集した16人のグループで夜中に乗り込んで来たらしく、その内の一人の女性で大阪から夫婦で参加している由、久しぶりの日本人で懐かしく私の部屋の座席で暫く歓談しました。彼女によると青海湖を見て来たとの事。青海湖と言えば中国最大の湖、風光明媚で昼間なら列車の左手に見る事が出来た筈、それを見落とした事は真に残念です。ラサまでは概ね山の中で同じ景色、時々遠くに湖が見えるだけです。

3日目の3時頃ラサ駅に着きました。乗客が立ち去るのを最後まで待ちましたが駅舎出口で待つて呉れて居る筈のガイドが来ません。仕方なく芝生で覆われた公園の様な駅前広場を抜けて車が走る道路まで行くとそれらしい女性が居り、確認をすると私の為のガイドである事が分かりました。なぜ駅舎まで来ないのかと質すと「現地ガイドは駅構内に入ってはいけない事になっている」のだそうです。そして大事な話が有り^{トウシチヤン}董事長(社長)が待つて居るので先ずホテルまで行って欲しいという。なんだか悪い予感がしたが行くしか仕方がないのでそれに従った。

ホテルに着いて董事長なる男の言うには中国婦女旅行社(以下単に旅行社と書く)より「ツアー料金の計算が間違っていたので現地で日本円6万円を受け取った上でガイドをして呉れ」との指示が有った。6万円受け取らぬ限り当社は持ち出しになるので案内はしないと言う理不尽な要求であった。話が不当だけでなく現に所持金の残りも少なくこの儘では日本に帰れない。大変な事になった。旅行どころではない。気を落ち着けて考えた末、この男は少々日本語が解る様なので、「この問題は旅行社と私の問題であり貴方とは関係無い、これから私の言う事(結論としてはこの様な理不尽な事を云う旅行社は日本の観光庁に訴え日本の旅行各社にサーキュラーを回して貰うと私が息巻いて居ると!)を旅行社に伝え、日本部長が電話を掛けて来る様に」と。目の前で董事長が電話を架け返事が来るまで1時間余り内心は気が気で無かったが居直ってやった。やがて日本部長より電話が来た。内容は①落ち度は旅行社に有り申し訳ない。②国内旅行部の担当者が赤字を隠す為上司に相談せず指示を出した。③赤字の穴埋めは担当者がせねばならぬ。④貴方が今払えぬ事情も解る。⑤厚かましい言い分だが2万円は旅行社で被るから、6万円の中4万円だけ日本に帰ってからで良いから払って貰えないだろうか と言うものだった。日本部長だけあって一応相談に乗れる話、下手に出て礼儀も心得ている。一瞬考えた末OKした。7万円の料金が11万円に増えて損した気もしたが、一方問題が解決してほっとした。大連に続いて2度目、やはり正しいと思う事は主張すべき事例です。そうでないと中国人に嘗められます。後日談として約2カ月後長野で開催の中学生の交流会に中学生約200人を引率して来日、大阪で逢いましたが声からして若い美人かと期待したが、40代の唯の小母さんの付け馬でした。土産の紹興酒に中国風のカバー？ そのカバーだけが今も残っている。



翌朝8時出発と言う事で食事を済ませてロビーに行くとガイドは既に来て居り早速差し回しの車でラサ市内に出掛けました。目指すはラサのシンボル、ポタラ宮(殿)、程なく車は宮殿入口に着きました。暫く歩くと建物に入る入口が在るのですが、これが多分初めて来る旅行者には気付か無い様な所に有り、詳しくは覚えて居ませんが複雑な手続きだった様に思います。私はパスポートを渡して待っていただけですが10分位掛りました。北京で中国語しか話せないガイドと聞き一度は断ろうと思ったのですが婦女旅行社の強い勧めで不本意乍ら付けた訳ですが付けて置いて良かったと思う場面がこの後度々有りました。

113m13層から成る宮殿の中は600以上の部屋に分かれて居り多くが寺院(仏間)、寝室、事務所等が混在して居り、私流に説明すると特大の超々大型のマンションで一般に薄暗くきつい坂道やベランダ等も有り、最盛期はインドに亡命したダライラマ14世を中心にラマ教徒2万人以上が暮らして居たそうです。一通りの見学に約3時間、その後チヨカン寺？という寺に案内されましたがポタラ宮の一部の様な感じ、他にも同じ様なお寺が幾つか有り、それらを案内する積もりだった様ですが私は足の疲れも有り、この寺院に余り興味を示さなかった事を見てとって「どうしますか」と聞くので、「お寺はもう良い」と言うと「これ位で他に案内する処は無い」との答え、余り用も無いのに拘束してはと思いガイドとはそこで別れました。後で地図を買って良く見るとチベット博物館が有りその近くに大きな公園もあったので其処へ案内してもらえば良かったと思いました。

公園と言えば先程の寺院の前、飲食店や土産物屋が並ぶ雑然とした広場、ここに迷彩服を着た80名位の紅衛兵の一団が屯して居ました。これが政府派遣の解放軍かと思い注視しましたが、大した武器も所持して居らず緊張感も無く地元の女性と何やら話して居る者も居り、地元民も怖がっている様子は有りませんでした。食事をとり土産物屋を二三軒覗きぶらぶらしながらホテルに帰り疲れたのでベッドで横になり夕食まで二三時間眠りました。

翌7月25日は納木錯(ナムツオ)湖の観光である。納木錯は中国第二の塩水湖で世界一高い4718mに在る湖である。ラサの郊外に在り旅程は車で一日掛りとの事、楽しみです。朝8時ホテルを出発一路目的地に向かう。30分ほど走ると景色は一変する。景色も日本の山裾を走るドライブウエイの様で悪くはない。ただ未舗装の砂利道で随所に窪みがあり、そこに雨水が溜まり大きなものは小池の様である。其処を走って行くのだから注意しないとバウンドで車の天井に頭をぶつける。突然車が止まる。何かと思うと検問所だ。ガイドが車から降りて事務所に書類を見せに行く。そばには休憩所も有り中ではお菓子や飲み物が売られて居る。大きな処は食堂もある。この様な処が約30分置きに有る。11時を過ぎた頃休憩所の前で降りろと言うので降りると食事にすると言う。昼食代は含まれて居ないと聞いて居たので何を食べようかと迷ったが(中国では定食的な物があまりない)メニュー良く解らないので私が運転手と3人分を払う積りで一緒に食べるから好きな物を注文して呉と言ったらスープを含め5品出て来た。食事の間約1時間談笑、終わって支払おうとすると否々と手を振る。どう言う事が良く解らないが、そこは旅行社の指定従業員用飲食店だった様だ。謝謝と言ってお礼を言っただけ、結局は請客(チンクウ＝奢る又は奢られる)になってしまった様だ。

——次号に続く——

ポタラ宮⇒



＝納木錯（ナムツオ）から上海＝
私の中国一人旅より

川島章嗣

食後は納木錯に向かってひた走り途中峠を越えると湖が見えて来た。空は青く湖は濃紺でそのコントラストがこれまた美しい。読者にどの様に表現すれば理解して頂けるか？表現に苦慮するが今迄に見た事のない光景、今も目に焼き付いている。程なく湖畔に着いた。

200m程の湖畔に目を向けるとこちらはあまり美しいとは言えない。小便の為に便所を探すと掘立小屋の有料トイレがあったがどれもが塞がって居る。裏に廻ると土台からはみ出た大便の山が見え悪臭が漂っている。又服装はそれ程汚くはないが何組かの親子連れの物乞いが観光客を相手にお金をせびって居る。昔の香港の様な激しさが無いのがせめてもの救いである。ここに来て初めてラサが貧困である事を知った。至る所の地べたで衣類や土産物が売られて居る。水牛の様な角の有る動物に客を乗せて水際まで運ぶ運び屋も居たが徒歩で水際まで行った。真っ青な大きい湖の対岸の遠くには頂上に雪を頂いた連山が見える。とても美しい光景である。1時間ほど時間を潰し帰途に着いた。先の峠の処に来て後ろを振り向き湖を見るとかなり下に見える。納木錯の標高から推測するに5000m近くではないかと思われる。飛行機からは別にして、5000m近くまで登った日本人はそう多くは居ないと思う。夕方ホテルに帰還した。どーと疲れが出た。明日から帰路に着く。

翌朝11時半に迎えに行くからチェックアウトを済して早昼を食べて待つようにとの指示、かなりゆっくりと時間が有ったので荷物を預けホテルの近くをぶらぶらした。空港迄はかなりの距離で2時間余り掛った様に思う。きれいな景色で有った事は覚えているが2年も経つ、さてどの様にと言われるとはっきりとは思い出せない。唯空港が混雑して居りガイドにせかされた事だけは覚えている。後は空港の敷地の駄々広い事は覚えているが建物がどんなで有ったか等は全く覚えていない。当日渡されたチケットの控えを見ると登機時間が1510途中咸陽しやうやうで乗り換えになって居る。最初の飛行機の中の事もあまり記憶に無いが、咸陽で2時間ほど待たされた事、乗り継ぎの飛行機で横に座った女性（離れた座席に旦那が居る、）と話が弾んで楽しかった事、上海浦東空港に着いたのが22時頃で当初は世博会見物の時に泊まった申春旅館に行くつもりでしたが、自分たちはその辺に住んでいるので、まだ市内に行く高速バスが有るので一緒に行こうと強く勧められとうとうその誘いに乗る事になりました。ところがその後に変な事が持ち上がりました。市内の有るバス停の近くに車を預けて居ると言う停留所でバスを降り彼等の高級車に乗せてもらってホテルのある場所まで言ったのは良いが彼等が案内してくれたホテルは全て満員、さらに車で回って呉れたホテルは安い処で890元～1000元以上と負担に耐えられません。29日の乗船まで滞在せねばならぬ為、500元以下で無いと困る事を話し旅館で良いからと頼みました。そして宿賃238元の処が漸く見つかりました。時間は1時前、やっと一安心出来ました。彼は今中国で勃興するIT関係の青年実業家、中国人は信用出来ないと言う中に有って、この様な誠実で親切な青年も居る事を皆様に知って頂きたい。感謝感激！

納木錯(ナムツオ)はラサの北190キロに位置する中国で2番目に大きい湖。海拔4718メートルで世界最高海拔にある。



=上海市内(外灘)=

私の中国一人旅より(28)

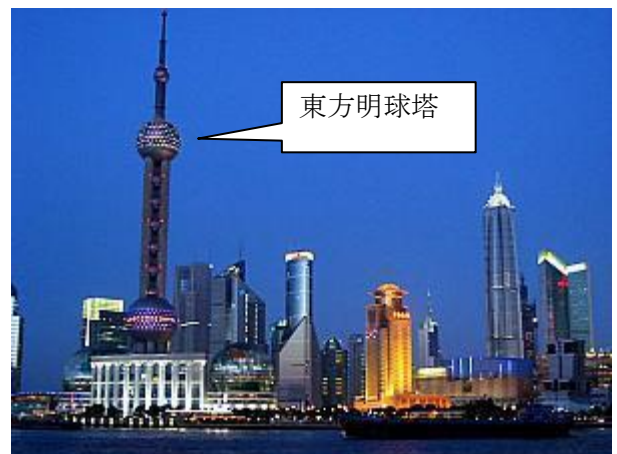
川島章嗣

翌朝は小雨が降って居た。1泊素泊まり238元の^{ホテル}宿屋は芝^{シボウ}蔭^{ピン}（ウ冠に兵）^{かん}館^とと言う。芝蔭は「芝生が生い茂った」という意味だと思うがそんなロマンチックな様子は毛頭ない。シャワーとトイレは付いて居るが道路の反対側の部屋で窓もない。一時は野宿でもと考えた位だから贅沢は言えない。改めて中国青年に感謝する。朝食は有り合わせのもので済ませる。カウンターの女性に色々聞いてみると、北西側は上海の中心地でバスの便もよく、外灘にも近く大阪へ帰る乗船場にも歩いて行ける便利な処である事が分って急に得した気分になった。天気もだんだんと良くなり昼前には薄日も射して来た。

教えてもらった食堂で昼食をとり、その後バスと地下鉄を乗り継ぎ地図を頼りにトンネルをくぐって対岸の浦東公園へ先ず足を運んだ。ここには東京スカイツリーが出来るまではアジアで一番高い468mの東方明珠塔があり、外灘、黄浦江を始めとする上海市内が一寸霞んで居ましたが一望出来るのです。その後別のトンネルを通る地下鉄に乗り人民公園に行きました。この公園は租界時代にはイギリスの競馬場だったらしくその広さは10万平方メートルも有るらしく兎に角大きい。池や花壇が有ってとても美しい公園です。約1時間余り時間を潰し其処からの帰路は終日歩行街路に成って居る賑やかな通りで外灘まで通じて居ます。途中で食事などしながら外灘に着いたのは日もとっぷりと暮れた8時過ぎでした。

普段は観光バスで通り過ぎて行くのでワイタンと言えは石造りの古いビルが立ち並ぶ通りとばかり思っていたが海辺にある展望台の公園部分は黄浦公園として区別して居るらしい事を初めて知った。この公園部分にはじめて来たのは30年位前で殆ど覚えて居ませんが、所々に当時を思い出させる階段などが有り懐かしい。(租界時代は「犬と華人は入るべからず」の立て札が立って居たと言う話を思い出す。)そしてその照明が何とも美しく、昼間に行った対岸の東方明珠塔の円輪が特に目立って美しい。其処からはバスで帰ろうと思ったが私の帰る宿屋のそばに在る上海大廈^{タアシヤ}(ビル)のネオンがすぐ近くに見えたので歩いて帰る事にした。5色の電飾に変化する外白渡橋(租界時代外国人はタダで渡れるが華人からは渡橋料を取って居た。白はタダの意味)を渡ってホテルに着いたのは10時前、足が棒に成りくたくた、シャワーを浴びてすぐに寝ました。

翌朝道路の警笛の音がおかしいので道路が見える所に出てみると外は土砂降り、その中をライトをつけた車が警笛を鳴らしながら行き来して居ました。どうやら本格的な梅雨が到来した様です。昨日市内観光を強行した事は正解でした。雨は小止みに成る事も有りますが概ね土砂降りの強雨、雨が止んだと思えば近くの食堂まで傘をさして出掛けると強雨に出くわし長雨の為帰れず、無理して帰ると足元がびしょ濡れに成りました。こんな雨が翌日の出発日も続きました。一軒隣に便利店(コンビニの事)が有って大いに助かりました。



＝帰国の船旅・上海(国際旅客輸送埠頭、黄浦江、長江)＝
私の中国一人旅より(29)

川島章嗣

いよいよ帰国、蘇州号の出帆は11時、受付終了は出航の30分前だから10時半、突発事故を見込んで歩いて10分(私は足が悪いので15分位か)の乗船場に9時に行けば大丈夫と踏んで食事とチェックアウトは8時迄に済ませロビーで雨が小止みになるのを待っていたが一向にその気配はない。寧ろ激しさを増して来る様だ。8時半を過ぎても変わらずタクシーを頼んだがこの様な日には予約しても何時来てくれるやら流しのタクシーを捕えるしか無いとの事、旅館の前に出てみたがタクシーは走って来るが空きタクシーは無い。10分ほど待ったが諦めてバスで行く事にした。バスの乗り場は旅館前道路の向こう側、身体は合羽を着ているので問題無いが、中国で買い替えた引手付きのスーツケースが布張り?の様で水に弱そう。心配して表面を撫でて居ると宿の女将が女店員に傘をさして送ってやれと言う。なんと親切な事か!バスは程なくして到着。礼を述べ手を振って別れた。乗船場は2駅目、バスを降りて土砂降りの中を20m程の路を必死で走った。待合室は他の船に乗る乗客達も居り大変混雑していた。蘇州号の乗客の立て札の前に9時前に到着したが既に可也の人が並んで居た。一息ついて土産物を買おうと土産物屋を探したがどういふ訳か1軒も開いて居ない。カップ麺の自動販売機のみが稼働して居り何人かの中国人が大きなカップを手で食事をして居た。10時前になって出国の手続きが始まった。順番は覚えていないがパスポートと乗船券それに2枚ほど書類を書いた様に思うが、せかさされる様にして手続きは終わった。最後に手荷物を預ける所があった。来しなは重い荷物を持って雨に濡れながらタラップを降りた記憶が有るが帰りはリュック1つを背負って楽々とタラップを上がる。上海の同じ船着き場だと思うが全然別の処の様な気がした。

船室に入って暫くして出航の銅鑼が鳴った。映写機を持ってデッキに出ようと思ったが接岸側は一杯。仕方なく反対側デッキで対岸の景色を眺めた。見覚えのある東方明珠塔だけは霞の中でも確認出来たが他は高いビルが林立するだけの漠然とした記憶しかない。30分ほど名残を惜しんだが寒くなったので船室に戻ったら同室の3人は既に戻って居た。2人は日本人1人は中国人であった。名前を名乗り簡単な会話を交わした事は覚えているが3年経つと記憶が薄れてあまりよく覚えていない。唯中国人の一人とは2日目に船室で酒を酌み交わし、その時彼が着に出したものの一つが鶏の足の加工品で驚いた事を覚えている。一つ二つは食してみたがあまり美味しい物ではなかったように記憶している。彼は中国進出の建設業の下請け(正確には孫請け)で大阪に在る会社に管督に成る為の研修に5年振りに訪日すると言っていた。話を元に戻して3時頃までに3回デッキに出てみた。3回目の時丁度黄浦江から長江(揚子江)に出る手前で、来しなには気付かなかった光景であった。暫くして長江に出る。海の様広い川幅で左手に陸地が在る。地図で調べるとチョンミンタオ崇明島、この長い島を隔てた対岸までの川幅は80km有るそう。他に2つ小島が見えたが長江の河口は広くて東シナ海と区別がつかない。ベッドに横に成り地図等を見て居ると急に眠たくなり6時の夕食まで昼寝をする事にした。夕食を知らせる船内放送で目を覚まし食堂に行って定食を食べた。O氏に会えるかと思いい食堂中を見て回ったがO氏は居なかった。ロビーでビールを飲みながら談笑、8時から始まるカラオケルームにも行ってみたがここにも彼は居なかった。この船で会おうと言っていたがどうやら乗船して居ない様だ。帰国後分かった事だが、ビザの延長手続きをせず1カ月ほど前に帰国した由、兎に角危ない事を平気でする奴の様で長春で別れた事は良かったとこの時思いました。疲れて居たのでカラオケは早めに切り上げ、往路の雑談で聞いた10時を過ぎると管理人が居なくなるという「展望風呂」に潜り込み直ぐに寝ました。翌日の起床は7時、次回は最終回とします。

＝帰国、ひげの話、まとめ＝
私の中国一人旅(30)

川島章嗣

翌朝食事の案内の放送で目が覚めました。大急ぎで顔を洗い食堂に向かいました。何時もの様に大賑わい特に見慣れた顔は有りませんでした。殆どが中国帰りの日本人、自然と会話が弾み親しくなりました。外は雨降り東シナ海の中を一路日本に向けての航海です。船室に帰り横になったり、ロビーに出て談笑したり、食事の外はぶらぶらとした一日を過しました。

往きと違い問題になったのが、私のアゴ髭です。不精髭に端を発した顎鬚が2ヶ月を経過して自分も驚くほど見事に伸びて居ました。往路の経験より剃刀も手元に在り剃ろうと思えば何時でも剃り落としは可能なのですが、それが惜しいと思うほど立派に伸びて居りました。10時を過ぎると管理人が居なくなると言う例の特等1等客向けの展望風呂へは剃刀を持って出掛けたのですが、鏡を見て居ると剃るのが惜しくなり、一方このまま帰ると皆が笑うだろうな等と考え、結局剃らずに部屋に帰りました。剃るなら明日の朝。色々考えましたが結論はこのまま帰って皆に意見を聴き、その結果に委ねようと言う事に成りました。笑われることを覚悟に先ず第一番目に隣に住む小学校の同級生に帰国の挨拶に行くと、「ええやないか、頭も白くなって居るが、お前染めとったんか？」と伸ばすことに賛成意見。他の者も「仙人みたいやなあ」とか「森繁みたいやなあ、鼻の下も生したら！」等剃り落とせと言う者は皆無、散髪屋に行くとは何時もの担当者が笑いながら「あんた幾つ」と歳を聴くので74歳（この文章が載る頃は76歳）と答えると60代と思って居ました。74歳なら歳相応、頭も髭も自然のままが良いと。結局髭は伸ばす事に決めました。序に頭髪の事を申し上げると40代から胡麻塩頭を染めたり止めたりして来たがこんなに白くなって居たとは本人は全然気付いて居ませんでした。染めた毛を完全に自然に戻すのに8ヶ月掛りました。（ご参考に）唯一つ残念な事は一回りサバを読んでいた歳が誤魔化せず一気に白髪の老人に成ってしまった事です。

話を元に戻して、翌朝目を覚ますと左側に山が見えその前に都市や工場が見えました。雨は降って居ますが日本らしい様子から瀬戸内海を進んでいる様です。朝食を取って居る頃鳴門大橋を通過ここからは見慣れた光景です。やっと日本に帰り着いた気がしました。2010年7月1日9時頃予定通り大阪南港の国際フェリーターミナルに着きました。丁度雨も上がり、前回述べた中国人を大阪港駅まで同道し昼頃家に着きました。草木ボウボウ。延長ビサの期限、10日の総選挙にも間に合いました。

1回の予定「船旅のお薦め」が阪田会長に煽てられ全部で30回、足かけ3年にも及びました。その間私の拙い紀行文にお付き合い頂きました読者の皆様に感謝致します。少々紙面が余りましたので、2、3注意事項をまとめとして述べてみたいと思います。

1. 中国語（英語でも何語でも良い）が少々出来る人は出来るだけ若いうちに、独り旅をしてみると良い。度胸が付きます。期間は1ヶ月。都市は2ヶ所位に絞ると良い。
2. 冒険は出来るだけ慎む事。道や行き先を尋ねるのは出来るだけ旅行社や土地の人に聞くこと。旅行者に聞くと酷い目に合う事がある。
3. 海外旅行保険は最低額で良いから必ず掛けて出掛けること。4大カード会社のカードには90日間の保険が付いている。但し外国までの往復運賃をそのカードで支払う事が条件に成って居る筈だから良く調べて置くこと。

以上 完

